

2023年3月期 第3四半期決算の概況と通期の業績予想

～ 創業25周年を迎え
新たな挑戦と飛躍に向けた戦略的再編 ～



2023年1月27日
モーニングスター株式会社
代表取締役社長 朝倉 智也

連結決算の概況

2023年3月期第3四半期の連結数値

売上高は11期連続の増収、6期連続で過去最高

経常利益は14期連続の増益、11期連続で過去最高益を更新

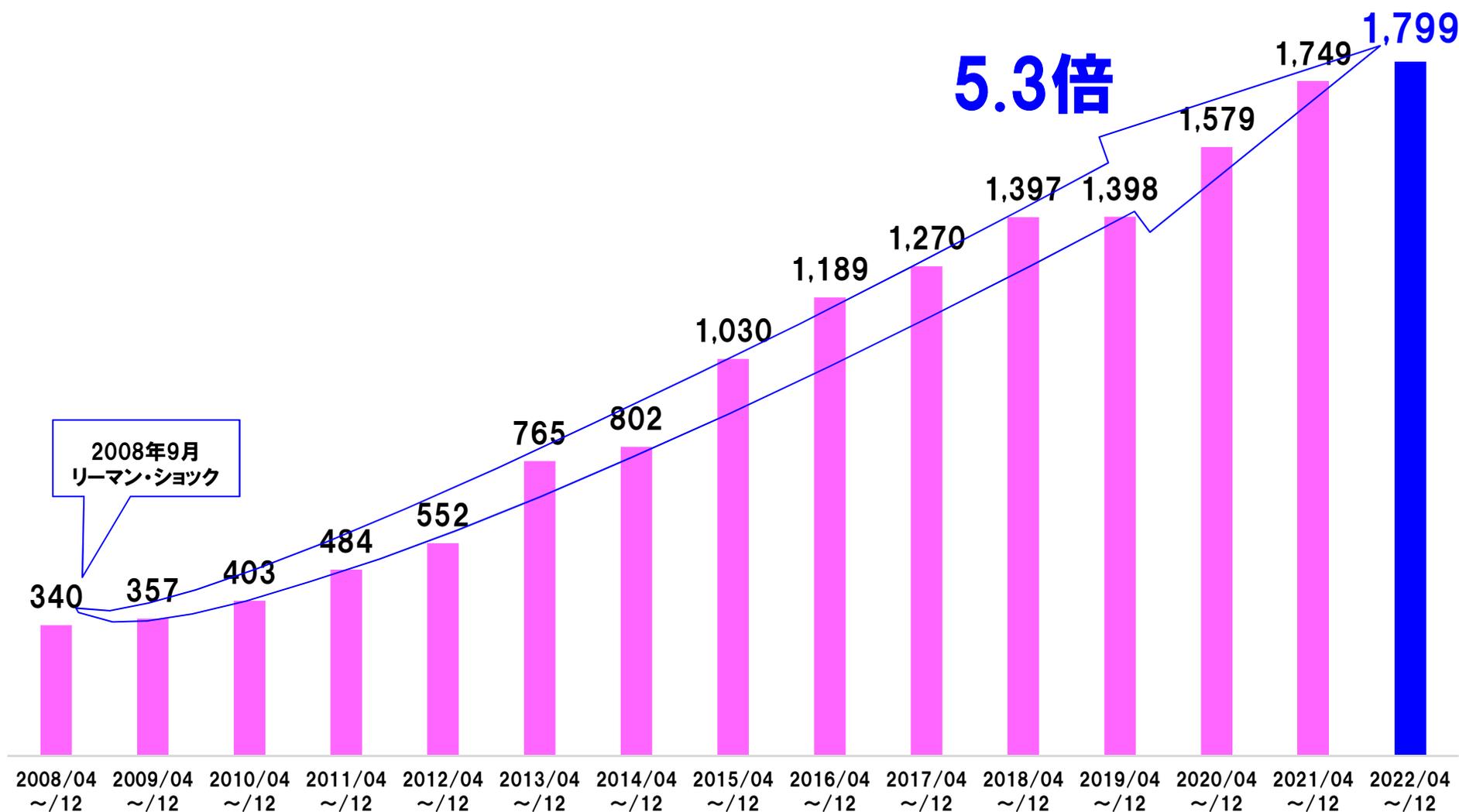
(単位:百万円)

	2022年3月期 第3四半期 (2021年4月～12月)	2023年3月期 第3四半期 (2022年4月～12月)	対前年同期 増減率
売上高	5,993	過去最高 6,526	8.9%
営業利益	1,513	過去最高 1,517	0.2%
経常利益	1,749	過去最高 1,799	2.9%
当期利益	1,043	過去最高 1,091	4.6%

連結経常利益の推移

リーマン・ショック後、14期連続の増益 & 11期連続の過去最高益を更新

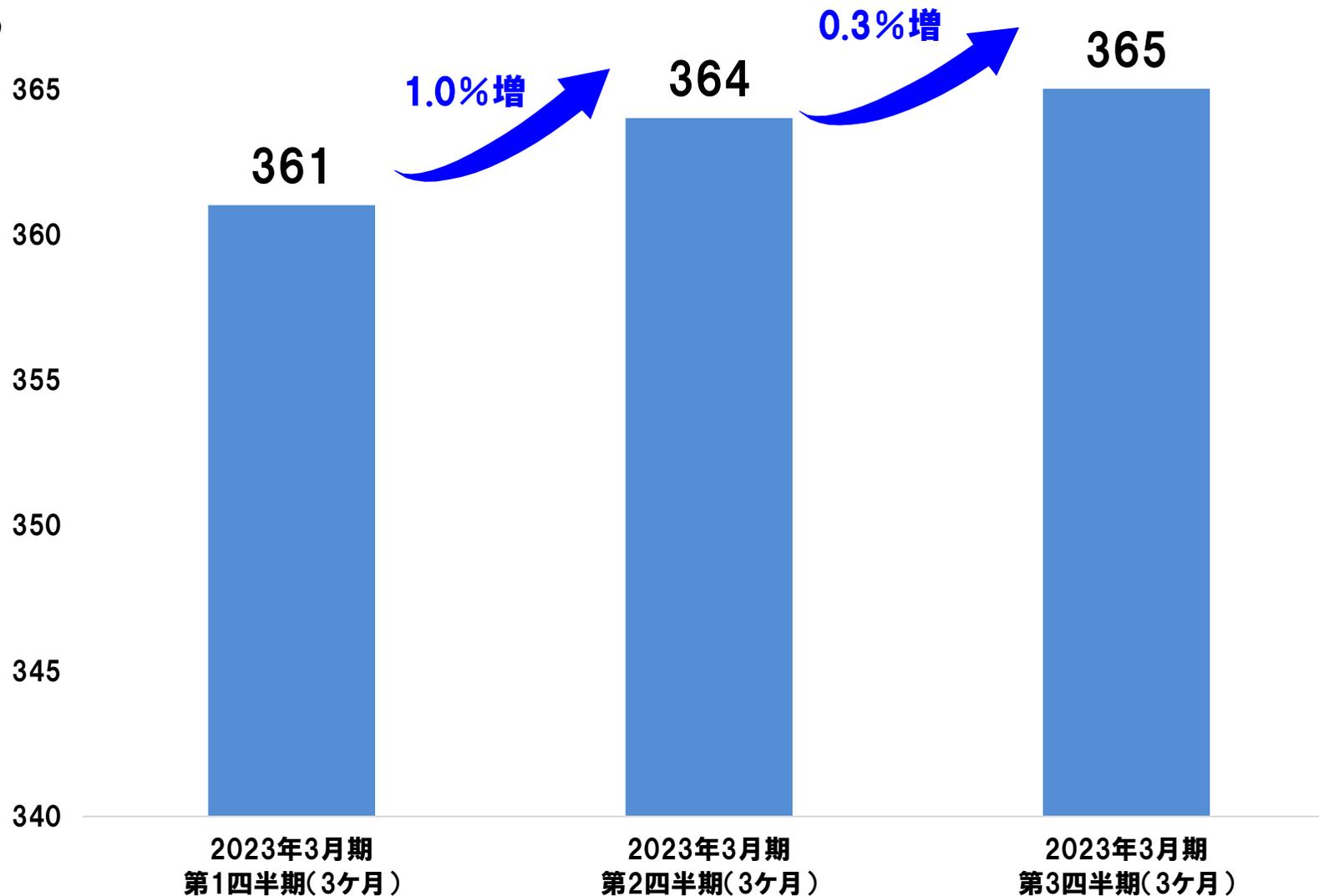
(単位:百万円)



今期の四半期毎の当期利益の推移

2022年は厳しいマーケット環境ながら、着実に四半期毎に利益は増加

(単位:百万円)



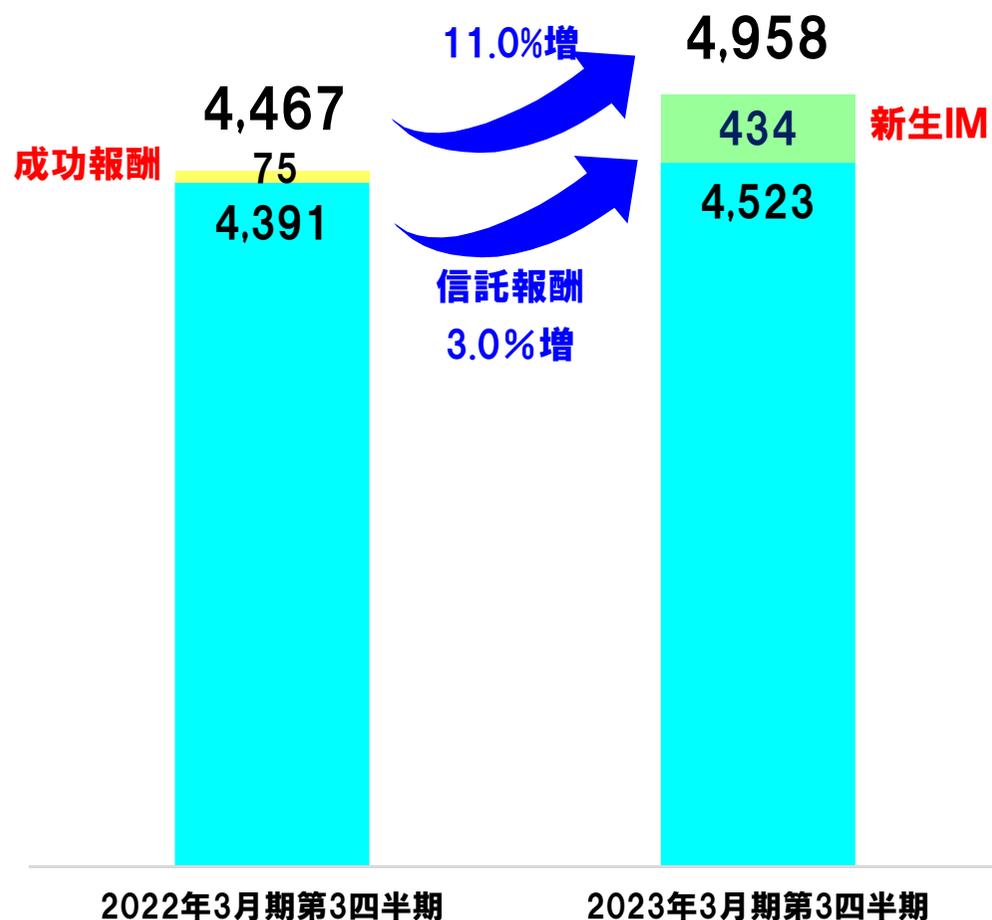
※当期利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益

セグメント別の売上高

アセットマネジメント事業、ファイナンシャル・サービス事業ともに増収

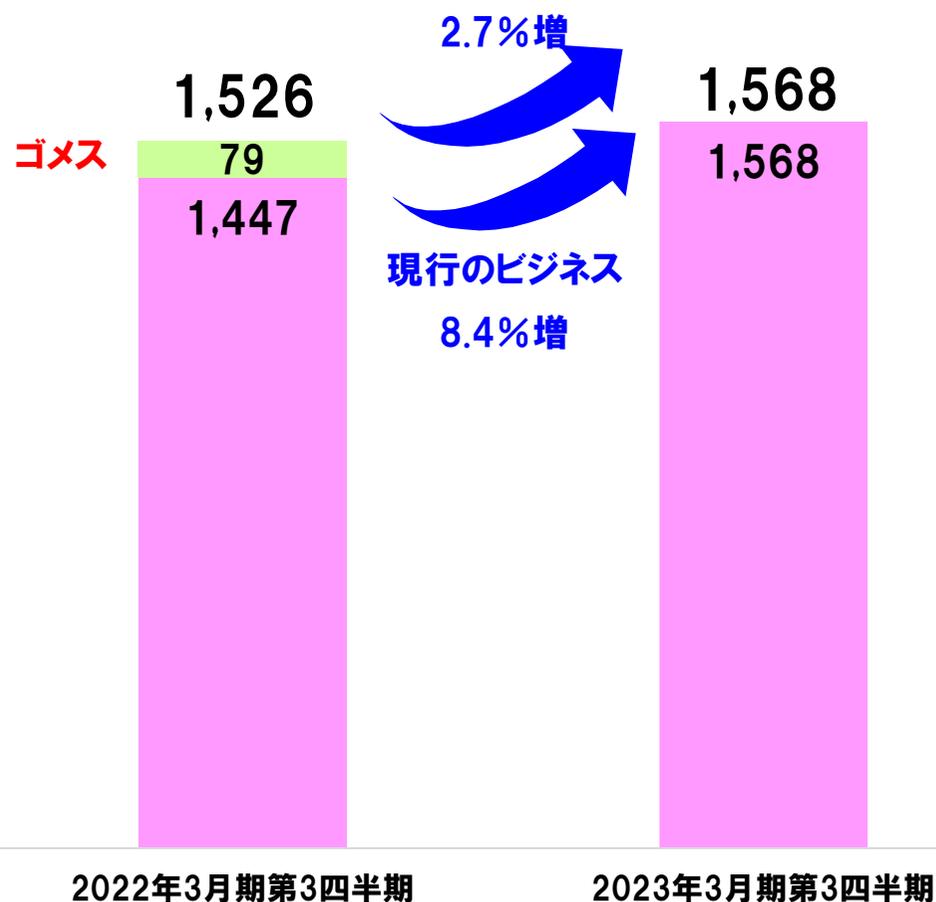
<アセットマネジメント事業>

(単位:百万円)



<ファイナンシャル・サービス事業>

(単位:百万円)



主要なサービス別の売上高の増減

相対的に市場環境に大きく影響されないプロダクト・サービスは継続して拡大

(単位:百万円)

プロダクト/サービス		2022年3月期 第3四半期 (2021年4月～12月)	2023年3月期 第3四半期 (2022年4月～12月)	増減率 (%)
アセットマネジメント事業	SBIアセットマネジメント (旧SBI債券インベストメント&SBI地方創生AM含む)	(信託報酬) 3,409 (成功報酬) 75 合計: 3,485	(信託報酬) 3,450 (成功報酬) 0 合計: 3,451	1.2 - -1.0
	新生インベストメント・マネジメント	-	435	-
	CARRET Asset Management	971	1,063	9.5
ファイナンシャル・サービス事業	タブレット端末向けのデータ	447	487	8.9
	スマートフォン、PC向けのデータ(定常的)	629	701	11.4
	スマートフォン、PC向けのデータ(一時開発)	36	12	-66.7
	メディア・ソリューション (セミナー関連) (WEB広告)	222 59	192 39	-13.5 -33.9

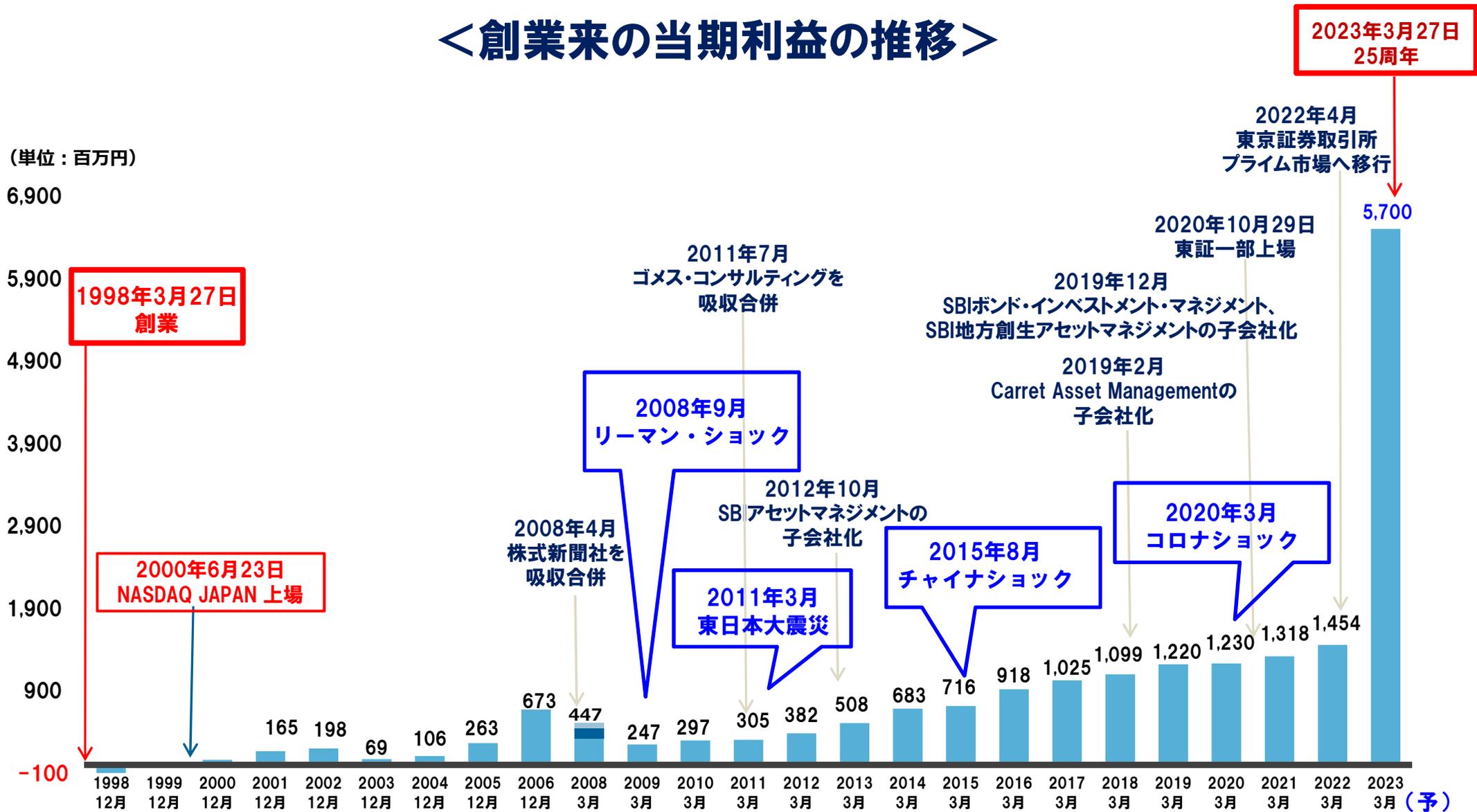
**創業25周年を迎え
新たな挑戦と飛躍に向けた戦略的再編**

創業25年の軌跡

2023年3月27日に創業25周年を迎える

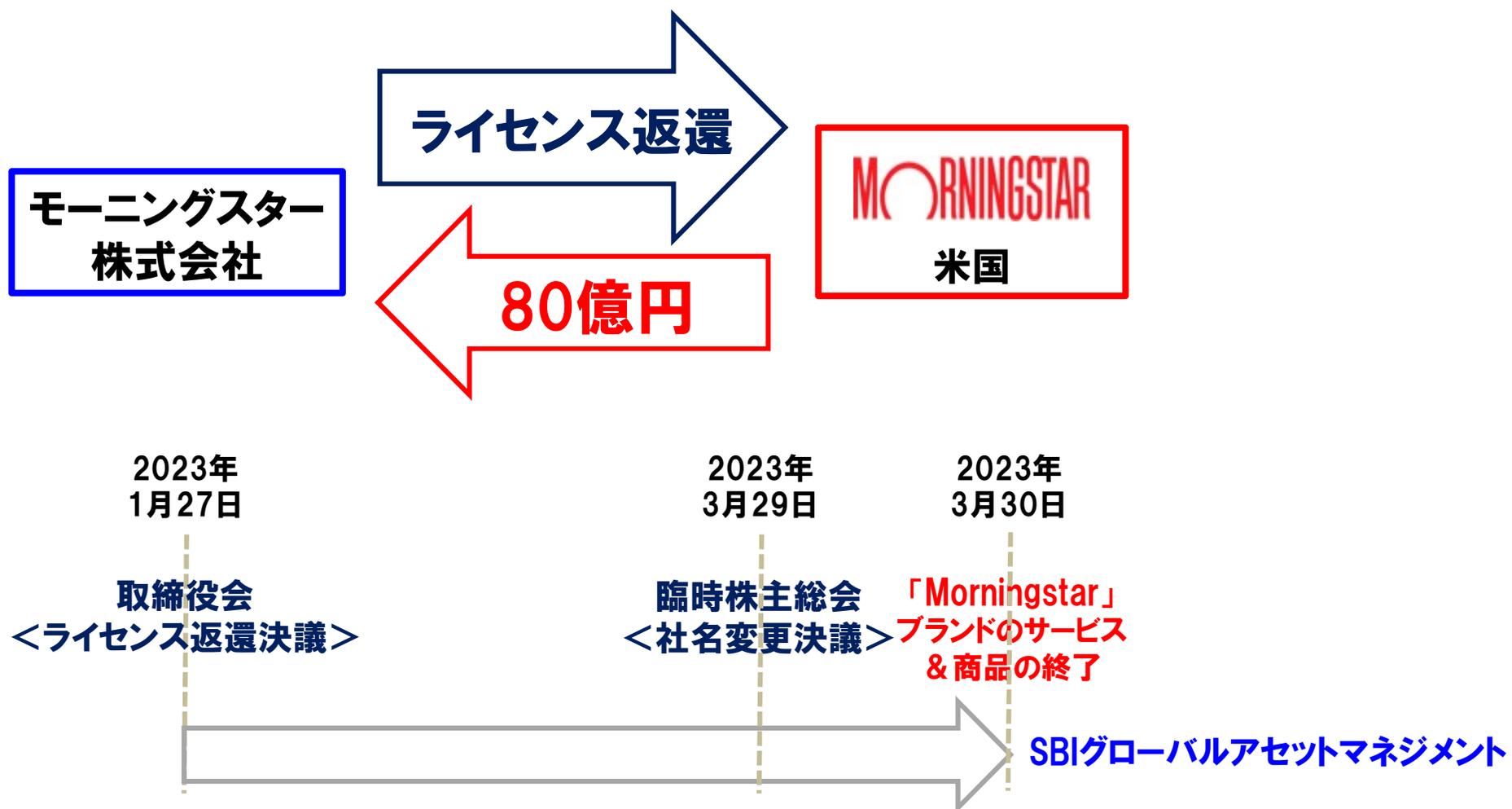
今期の連結当期利益は、14期連続の増益、10期連続の最高益を更新する予定

<創業来の当期利益の推移>



日本における「モーニングスター」のブランドライセンスの返還

社名変更:「SBIグローバルアセットマネジメント」へ



当グループの戦略的再編

MORNINGSTAR

社名変更(2023年3月30日付)
SBIグローバルアセットマネジメント株式会社

<アセットマネジメント事業>

<ファイナンシャル・サービス事業>

投資信託評価事業等の
ファイナンシャル・サービス事業の会社分割

PIMCO 2.1%
地方銀行 7.7%

90.2%

100%

100%

SBI Asset Management

新生インベストメント・マネジメント

CARRET
Asset Management

E-Advisor

MORNINGSTAR
ASSET MANAGEMENT

合併

Carret Asset Management
(米国)

合併

2023年4月1日付

SBI Asset Management

SBIアセットマネジメント

(日本)

社名変更(2023年3月30日付)
ウェルズアドバイザー株式会社

引き続き中立・客観的な立場で
的確な投資情報の提供を行う

今後の事業環境の変化を見据えた戦略的再編

<当社を取り巻く事業環境の変化>

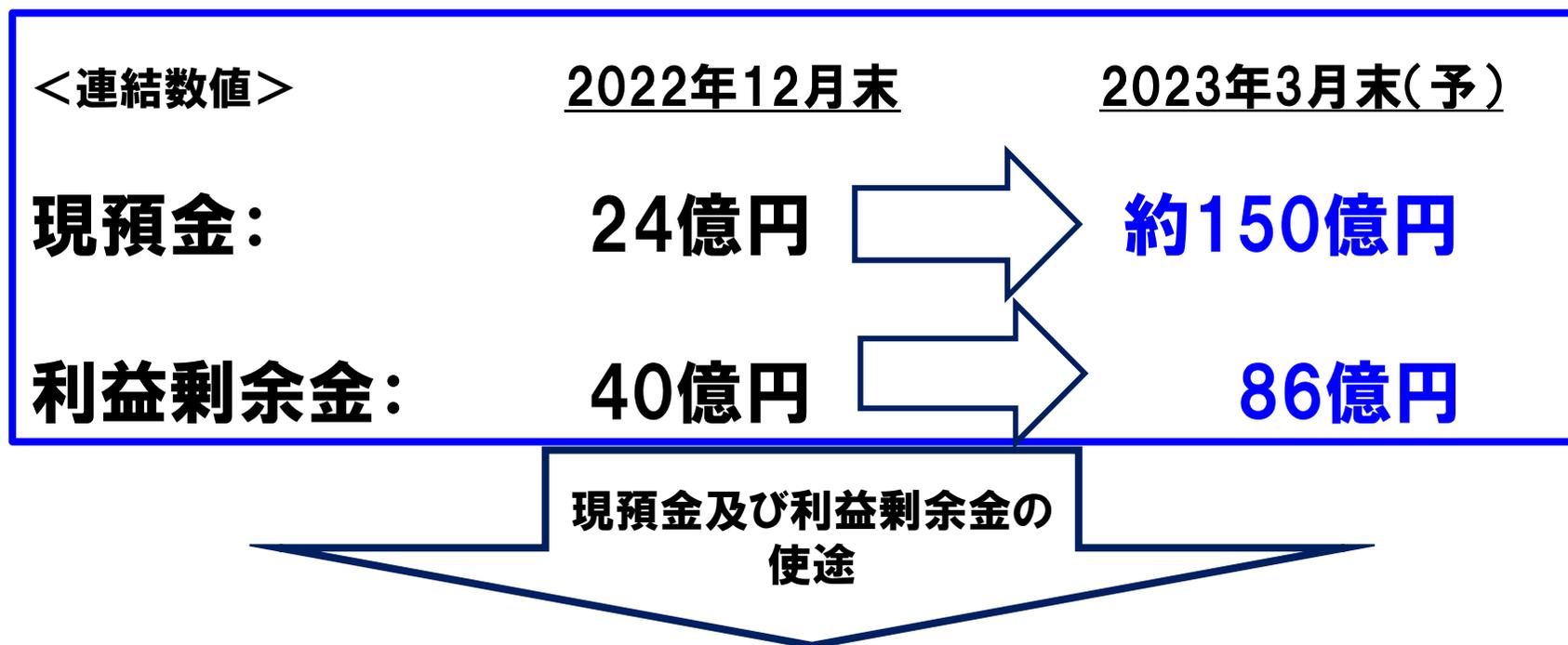
- 1) 国内では「インフレの高進」と「資産所得倍増プラン」の施行により、家計の「貯蓄から投資」「貯蓄から資産形成」が一気に加速する。
- 2) 景気後退が予測される中、国内外のアセットマネジメント会社のバリュエーションが低下し、M&Aの最適な機会が到来する。
- 3) モーニングスターの評価主体である投信や株式等の伝統的資産に加えて、REITやFX等のオルタナティブ資産や、暗号資産、セキュリティトークン(ST)、NFT等の次世代資産の投資が進む。
- 4) アジアを中心とした新興国での投資教育と資産運用の機会が拡大する。

<戦略的再編の意義>

- **最適な事業環境の到来を機に、返還資金を含めたキャッシュを活用し、アセットマネジメント事業の一層の拡大を図る。**
- **投信評価のモーニングスターブランドから、総合的なアセットマネジメントグループに脱皮し、アジアを中心とした海外市場への事業展開を図る。**

ライセンス返還により経営指標が大きく向上

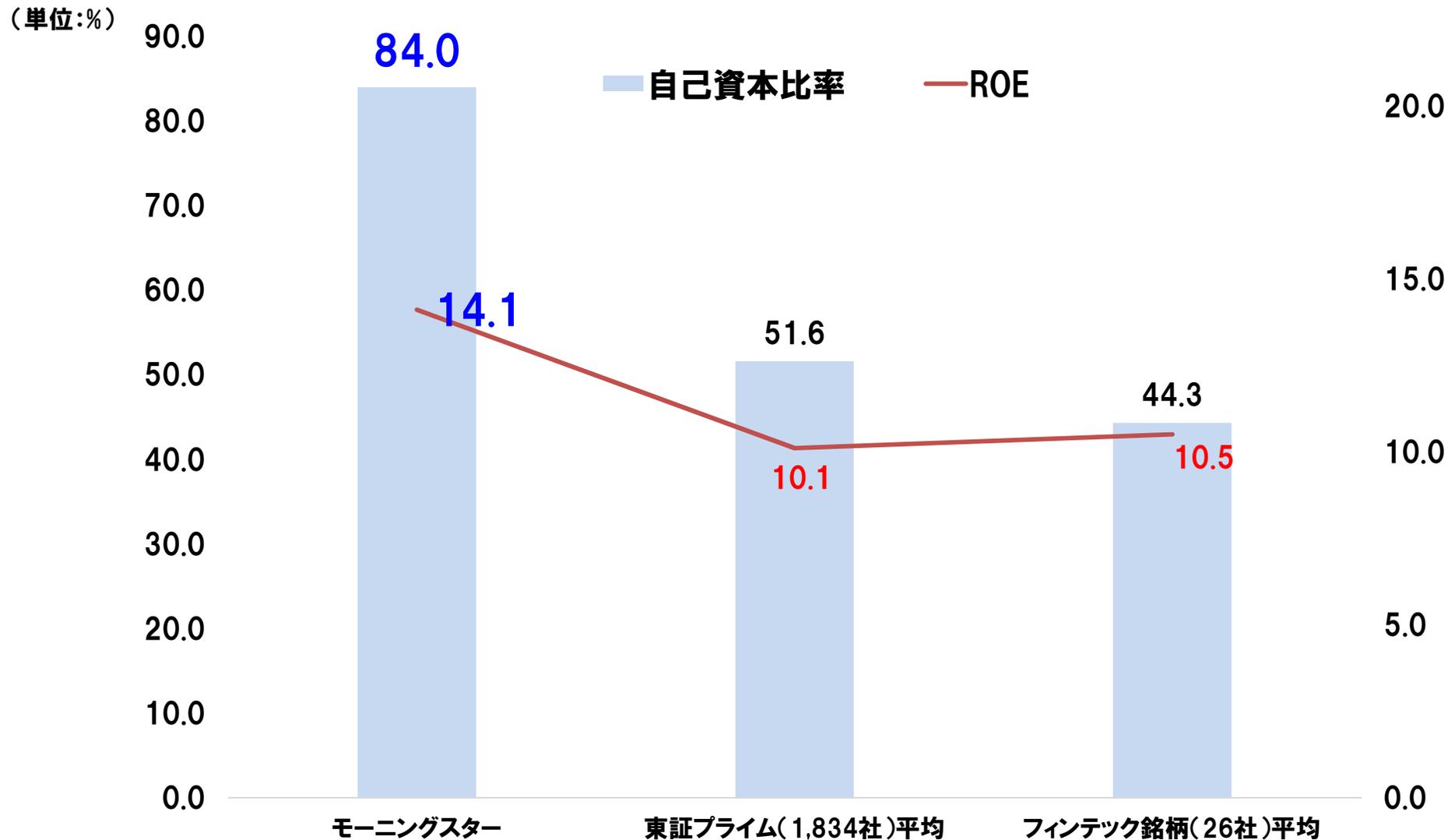
返還益80億円 & 投資有価証券の売却等により、
合計120億円超の現預金の増加



- 1) 国内外のアセットマネジメント会社の買収
- 2) 資産運用事業のアジア市場への展開
- 3) 次世代資産を含めた総合金融情報提供の展開
- 4) 株主還元の更なる向上

自己資本比率は高く、かつROEも極めて高い

財務レバレッジを高めて、更なる成長投資が可能

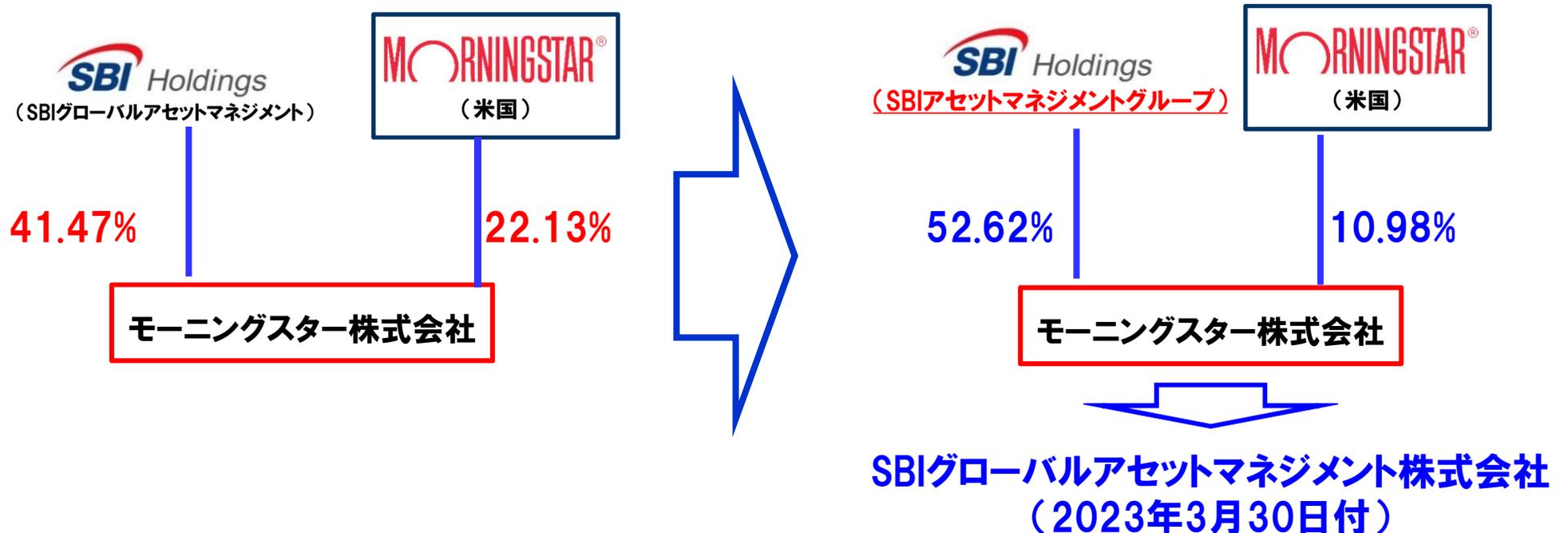


※出所:モーニングスター、Pitchbook。2023年1月16日時点。
比較対象は、フィンテック銘柄と東証プライム上場銘柄の単純平均値。直近本決算の実績値

SBIグループ各社との更なるシナジーの追求

SBIグローバルアセットマネジメント(SBIアセットマネジメントグループに社名変更予定)が当社株のTOBを行い、米国モーニングスターから上限10,000,000株(11.15%)を取得する予定

SBIグローバルアセットマネジメントによる当社株のTOB期間
(2023年1月30日～2023年2月28日)



*2023年3月29日の臨時株主総会での
社名変更決議

TOB(株式公開買付)について

**TOBの目的は、当社の親会社であるSBIグローバルアセットマネジメントが、
米国モーニングスターと締結した応募合意契約に基づく
応募合意株式のみを取得すること**

- 但し、本TOBは、金融商品取引法第27条の2第1項第2号に従い、法令上必要であることから、TOBを実施し、米国モーニングスター以外の当社の株主の皆様にも同一の売却機会を提供するもの。
- 本TOBの価格は、公表日前日(2023年1月26日)の終値(462円)と比較して**5%のディスカウントの439円**。
- 本TOBは、当社株式の上場廃止を企図するものではなく、SBIグローバルアセットマネジメントは、本公開買付け成立後も当社株式の上場を維持する方針である。
- TOB終了後も、当社のSBIグループにおける位置づけを変更する予定はなく、引き続き上場会社としての独立性を確保しつつ、経営体制についても現状を維持する。

2023年3月期の連結業績予想

「モーニングスター」ブランドのライセンス返還益80億円を特別利益に計上し、
当期利益は大幅増益の見込み

今期はライセンス返還益を除いても売上と全ての利益項目で過去最高を更新する見込み

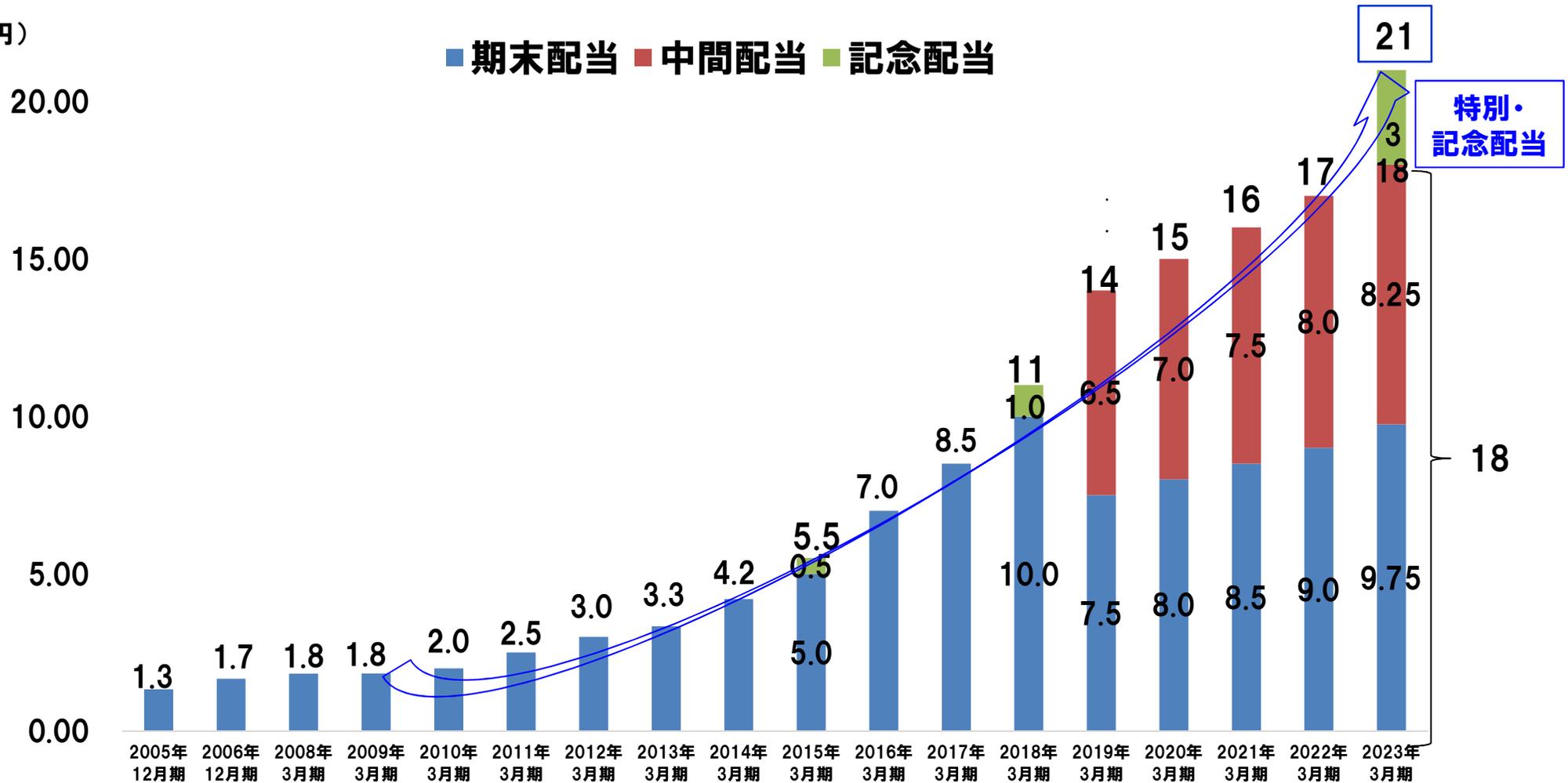
(単位:百万円)

	2022年3月期	2023年3月期 ＜業績予想＞	増減率
売上高	8,123	過去最高 9,000	10.8%
営業利益	2,129	過去最高 2,150	0.9%
経常利益	2,403	過去最高 2,500	4.0%
当期利益	1,454	過去最高 5,700	3.9倍

配当は14期連続の増配を実施

2023年3月期の期末配当金は、普通配当金9.75円+特別・記念配当金3円を含めて12.75円。中間配当の8.25円を含めて今年度の合計配当金は21円

(単位:円)



(注) 2015年3月期の記念配当は、上場15周年記念配当
2018年3月期の記念配当は、設立20周年記念配当、2023年3月期の記念配当は、特別利益計上と設立25周年記念配当

期末の株主優待

5単元以上保有の株主の皆さまに、XRP追加進呈の株主優待を設定

単元数(株数)	(1) 株式新聞ウェブ版	(2) 仮想通貨(暗号資産) XRP	通常価格 相当額合計
1単元(100株)以上 5単元(500株)未満	 <p>2023年6月1日から 2023年12月3日まで 6ヵ月無料購読クーポン (26,400円相当)</p>	<p>2,500相当の 暗号資産(仮想通貨) を進呈</p> 	28,900円
5単元(500株)以上	<p>2023年6月1日から 2024年6月3日まで 12ヵ月無料購読クーポン (52,800円相当)</p>	<p>10,000相当の 暗号資産(仮想通貨) を進呈</p>	62,800円

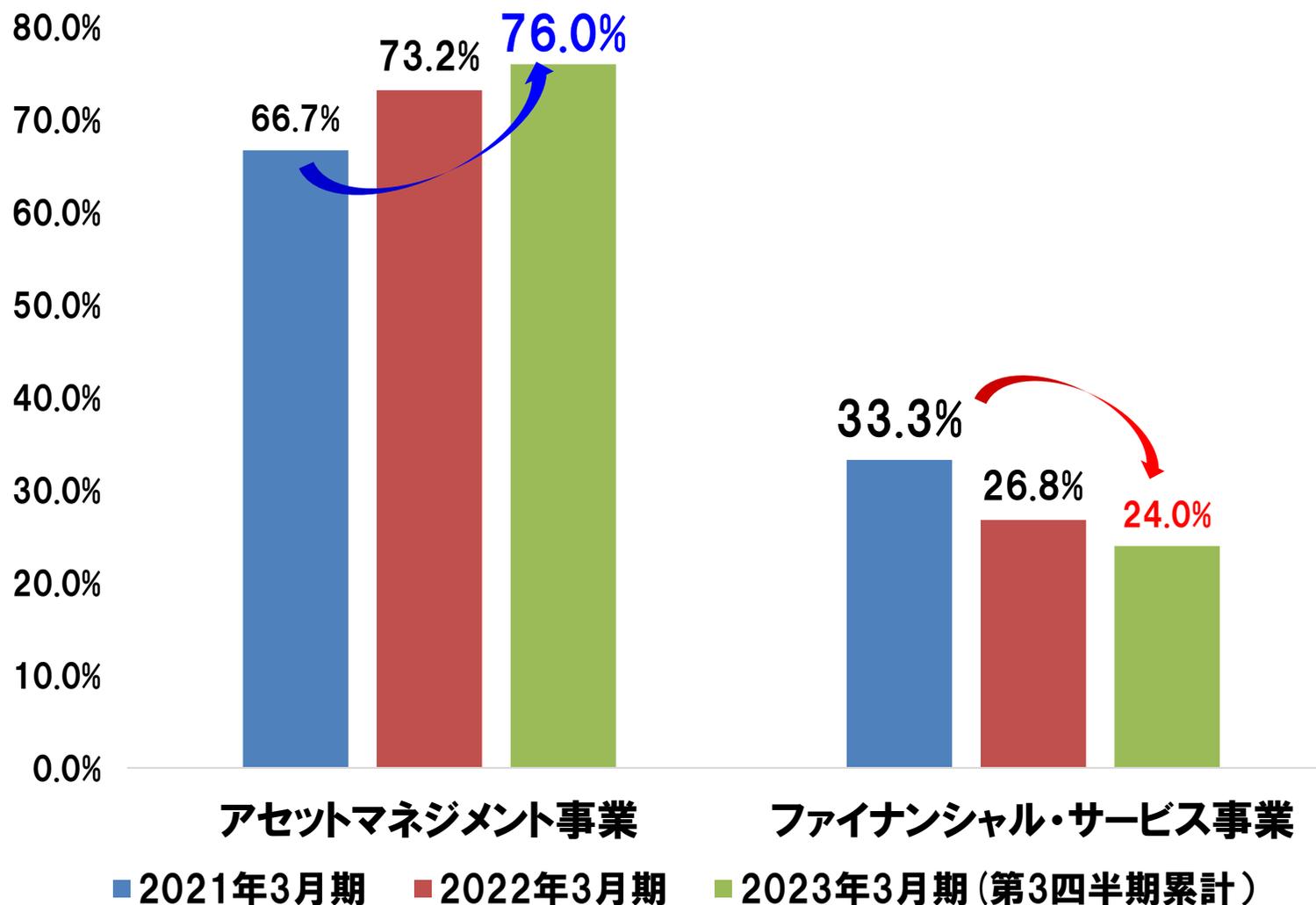
来期から中間期の株主優待は廃止する

「モーニングスター」ブランド返還による ファイナンシャル・サービス事業の影響

「モーニングスター」ブランドの返還による収益の影響は軽微

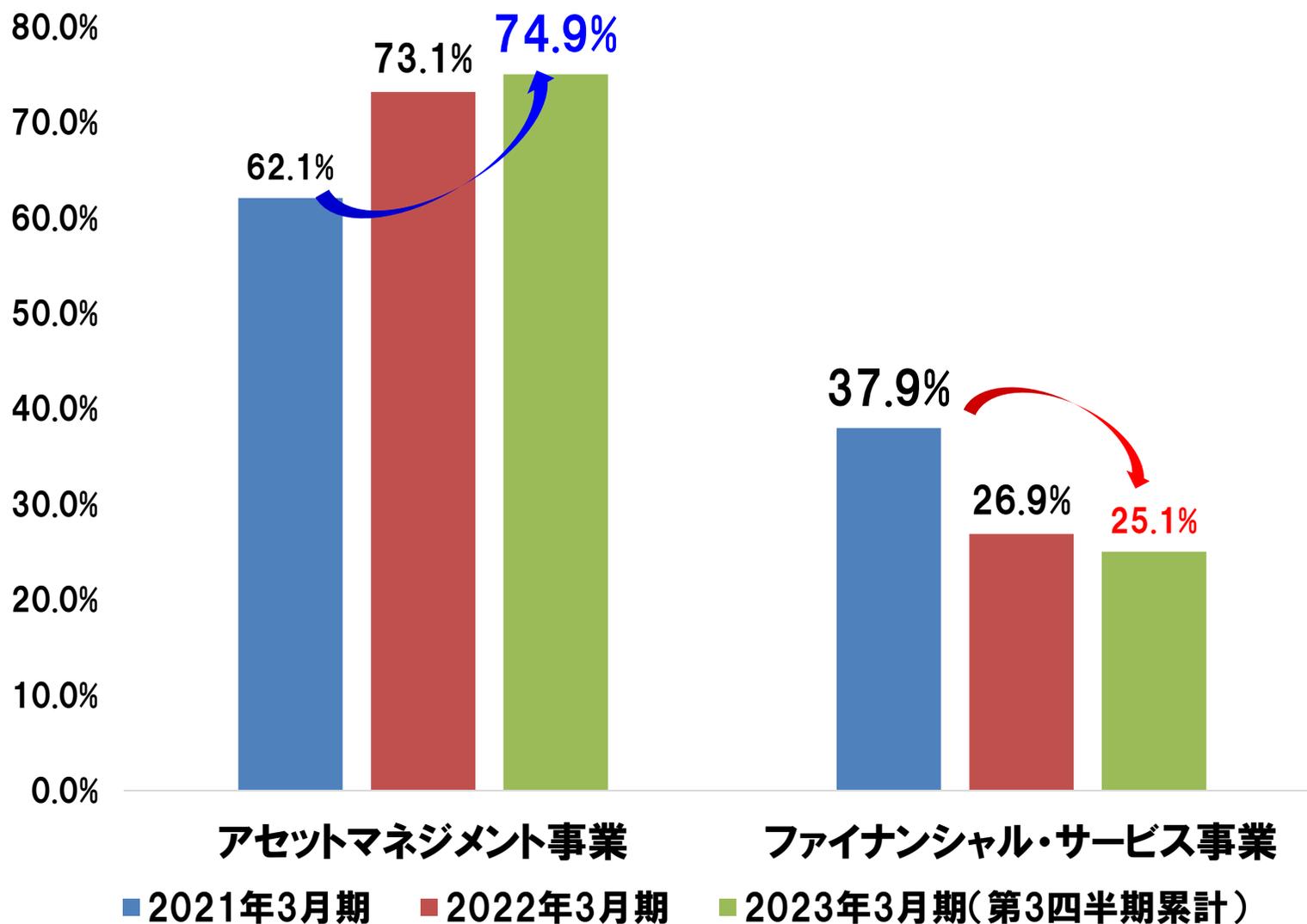
連結収益に占めるアセットマネジメント事業の比率は拡大を続ける

連結売上高のセグメント別の構成比



連結利益に占めるアセットマネジメント事業の比率は約75%

連結利益のセグメント別の構成比



ファイナンシャル・サービス事業は「モーニングスター」から「ウェルズアドバイザー」にブランドを変更してサービスを継続

「モーニングスター」のブランドで展開していた業務は全て残る

<「モーニングスター」ブランドを利用しているサービス>

1) タブレット端末向けのデータ
(ラインプランツール含む)



2) スマートフォン、PC向けのデータ
(オンラインコンテンツ)



3) メディア・ソリューション(セミナー・WEB広告)
(個人投資家向けスマートフォンアプリ、YouTube)



<「モーニングスター」ブランドを利用していないサービス>

・株式新聞アプリ



・IR関連サービス(株式リサーチレポート)



モーニングスターの「スターレーティング」は「ファンドレーティング」に変更して、継続してサービスを提供

「モーニングスター」の投信評価事業は、「ウェルズアドバイザー」のブランドにて

ポートフォリオ登録 印刷 メール ダウンロード 各項目の定義

引き続き提供する

SBI・V・S&P500インデックス・ファンド [愛称: SBI・V・S&P500]

★★★★★

投信会社名: SBIアセットマネジメント

基準価額	前日比	純資産	カテゴリー	リスクメジャー
16,563円	↓111円 (0.67%)	728,216百万円	国際株式・北米 (F)	4 (やや高い)
2023年01月16日		評価基準日 2022年12月31日		

スナップショット リターン チャート 分配金 レーティング&リスク コスト ポートフォリオ ニュース 販売会社 目録見書

レーティング (対カテゴリー内のファンド)

	モーニングスター レーティング	モーニングスター リターン	標準偏差
総合	★★★★★	--	--
3年	★★★★★	高い	やや小さい
5年	--	--	--

標準偏差

	1年	3年 (年率)	5年 (年率)	10年 (年率)
標準偏差	21.15	19.42	--	--
カテゴリー	24.25	24.24	--	--

「ファンドレーティング」

★★★★★

モーニングスターとは協力関係を継続

MORNINGSTAR

モーニングスター
レーティング

総合	★★★★★
3年	★★★★★
5年	★★★★★
10年	★★★★★

SUSTAINALYTICS
a Morningstar company

オンラインコンテンツ



タブレット端末向けデータ

当社アプリ(My投資信託)

My投資信託

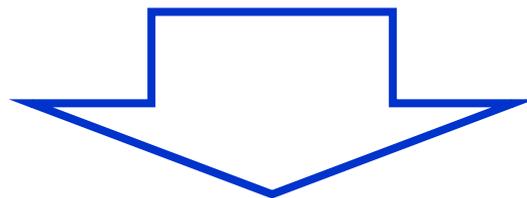
- ※ 取引を切り口からファンド選びを実現
- ※ 価格情報はリアルタイム対応
- ※ 購入履歴は履歴比較機能



今後も変わらずに「投資家主権の確立」に貢献していく

創業から今日まで豊富で偏りのない投資情報の提供と、
良質かつ安価なファンドを提供し、
投資家一人一人の最適な資産形成に貢献してきた

- 中立・客観的立場から豊富かつ良質な投資情報の提供
- 金融商品を容易に一覧比較できるサービスの提供
- より安価な手数料の投資信託の提供



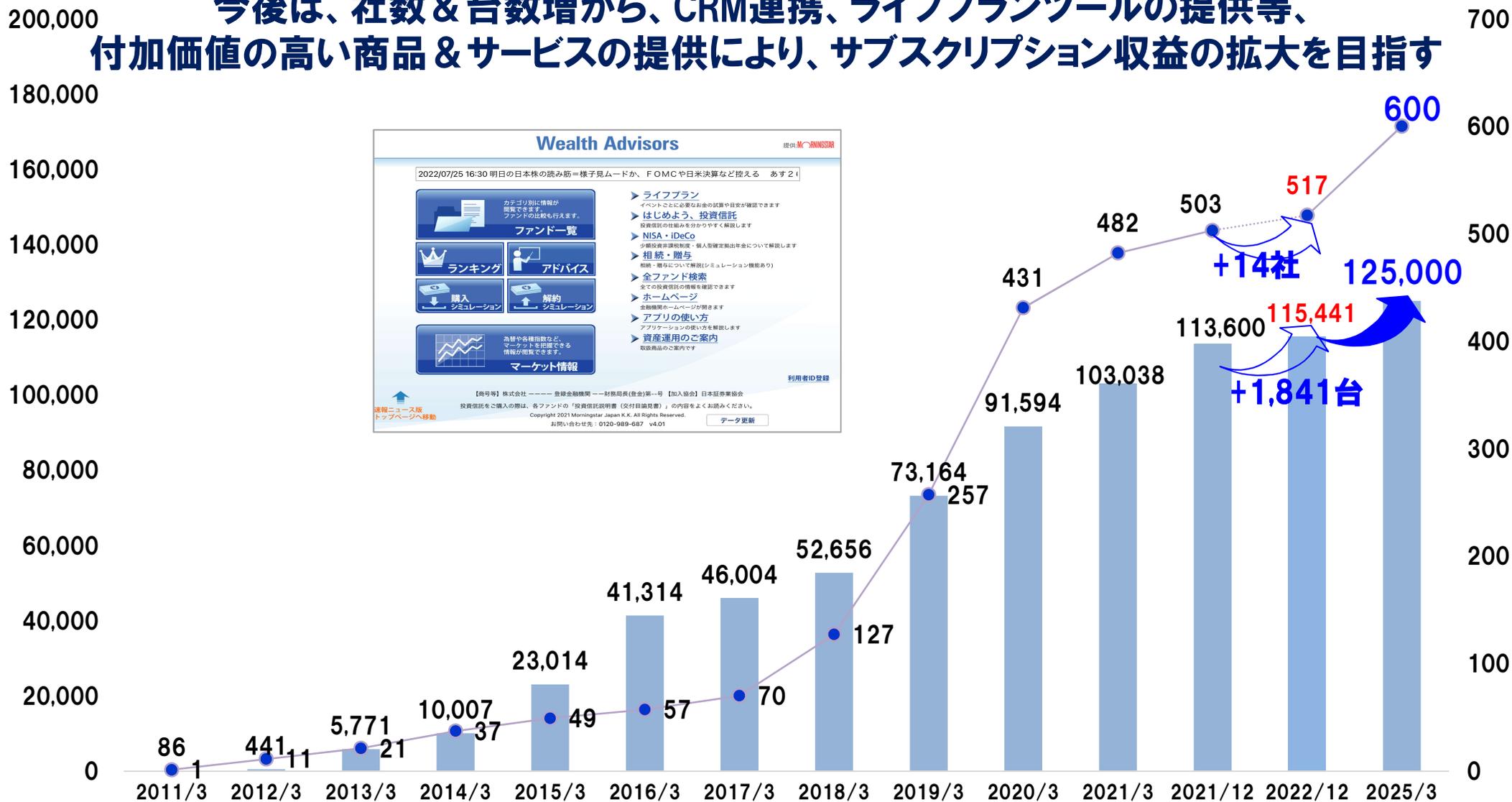
今後も変わらず、「投資家主権の確立」に貢献していく

「Wealth Advisors」は 『2025年3月末迄に600社、125,000台の導入を目指す』

(単位:提供台数)

(単位:提供社数)

今後は、社数 & 台数増から、CRM連携、ライフプランツールの提供等、
付加価値の高い商品 & サービスの提供により、サブスクリプション収益の拡大を目指す



(予)

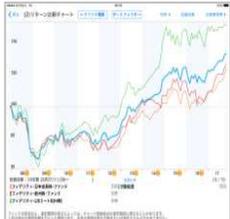
「Wealth Advisors」の「顧客残高情報連携(CRM)」機能の導入を積極的に促す

Phase 1

顧客へのアドバイス機能

提案

●比較・合成チャート ●ポートフォリオ分析 ●リスク・リターン分析



● Phase 2

顧客情報との連携(CRM連携)

■提供中 : 6社

- メガ銀行 : 1社
- 信託銀行 : 1社
- 地方銀行 : 4社

■導入検討 : 14社

- 地方銀行 : 10社
- 証券会社 : 4社

顧客情報との連携

● Phase 3

売買システムとの連携

約定



「顧客本位の業務運営(FD)に最適な 「ライフプランシミュレーション」ツールの積極的な推進

2025年3月末までに100社の導入を目指す

(単位:社)

120

100

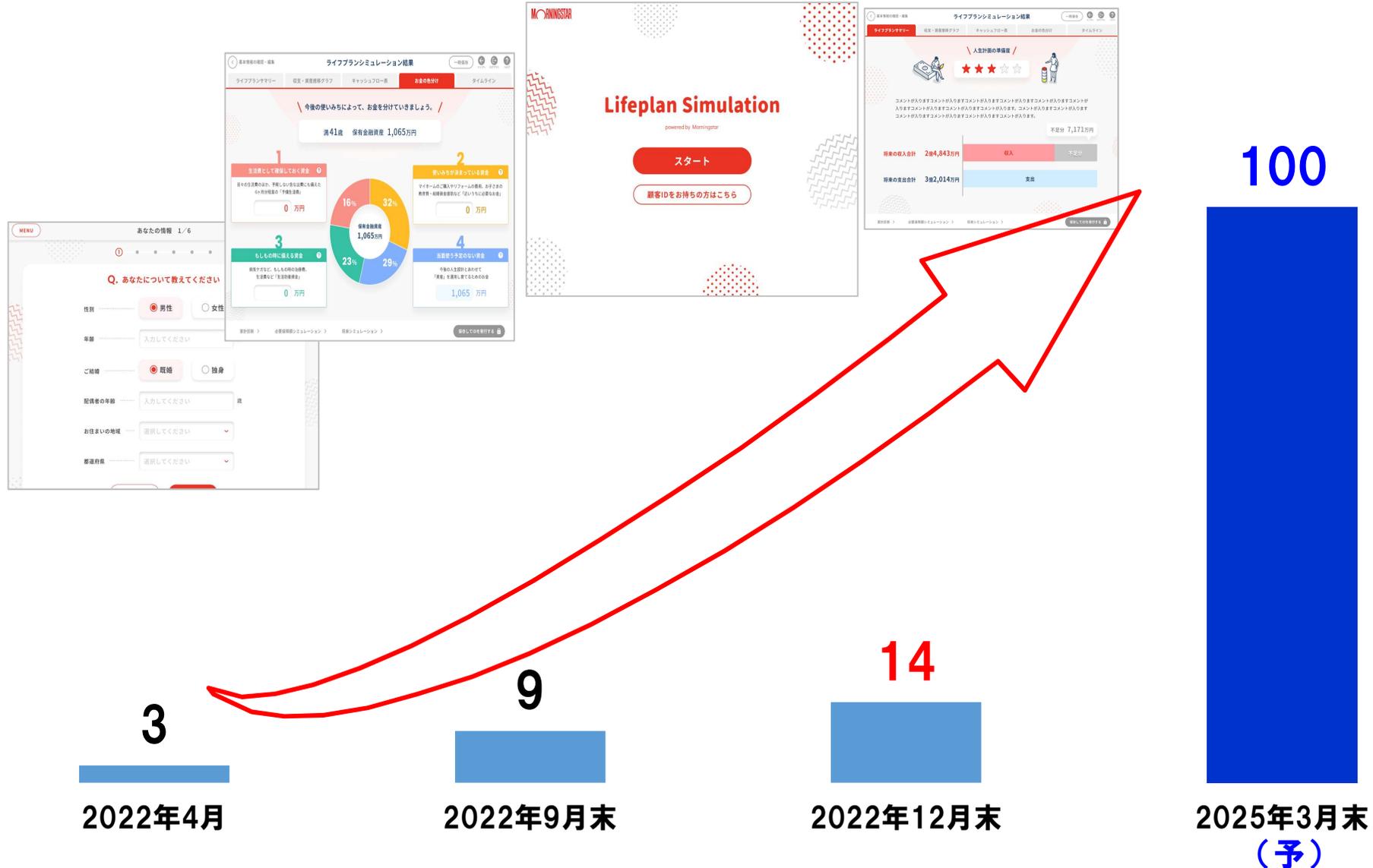
80

60

40

20

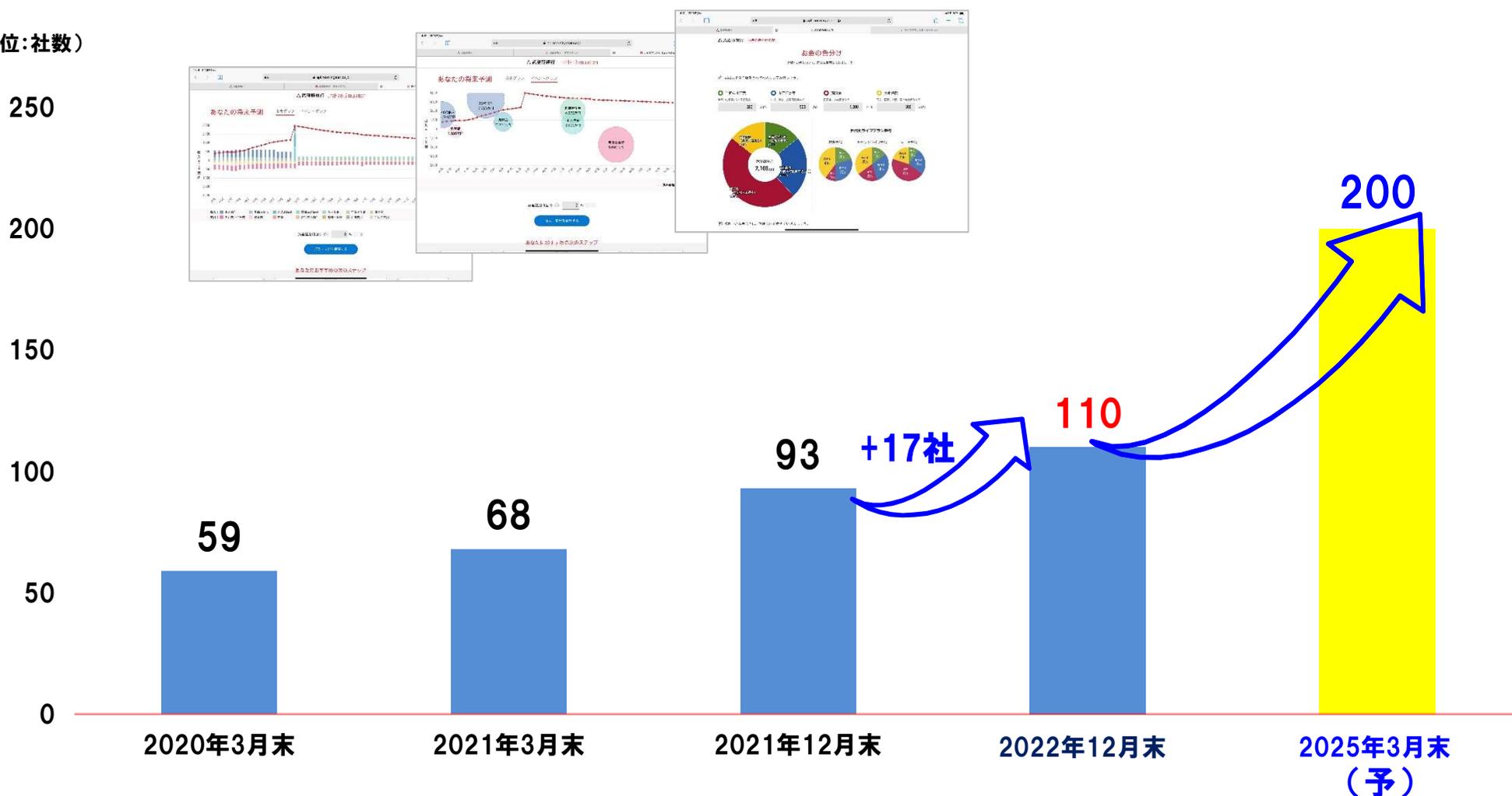
0



対面金融機関のオンライン上での投信販売を 支援する付加価値の高いオンラインコンテンツの提供

2025年3月末迄に200社の導入を目指す

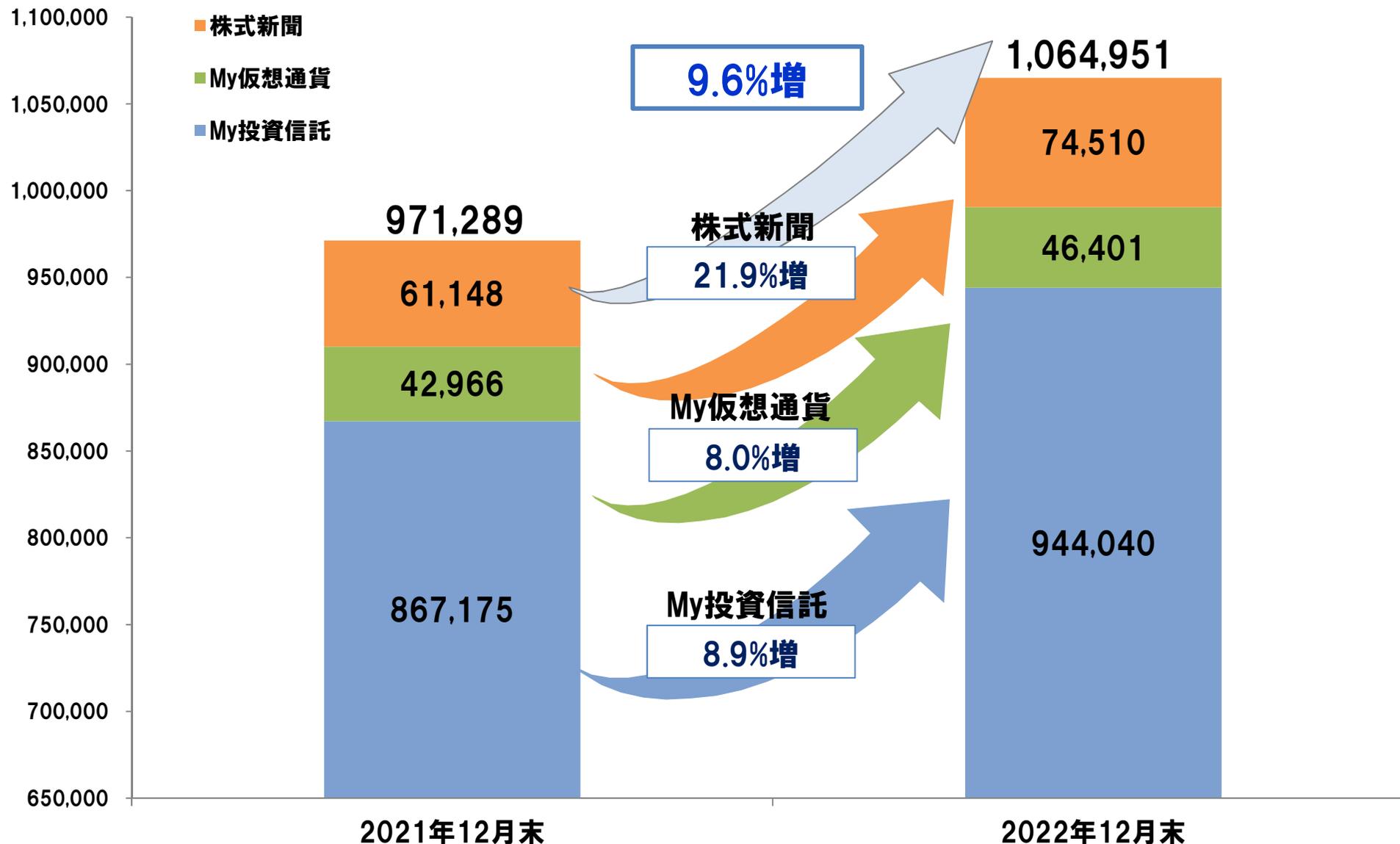
(単位:社数)



100万人超のユーザーに引き続き中立・客観的な 投資教育・投資助言サービスを提供

「My投資信託」「My仮想通貨」「株式新聞」アプリは継続して提供

(単位:DL)



ウェブサイト&アプリ、投信セミナー YouTube & SNS等のメディアは継続して新ブランドにて提供



(2023年1月18日現在)

ウェルズアドバイザー株式会社

& MORNINGSTAR

モーニングスターとの共催

対面 & ネットからの参加



次世代のデジタルアセットを含む総合金融情報の提供

SBIグループ各社との連携により総合的な金融情報の提供へ

Wealth Advisor

為替(FX)

SBI FXトレード

国内株式

株式新聞

Japannext
JNX

海外株式 & ETF
投資信託

SBIグローバルアセットマネジメント

暗号資産

SBI VC Trade

ST

(セキュリティ・トークン)

SBI証券
ODX
Osaka Digital Exchange Co., Ltd.

NFT

SBINFT



メタバース上でのイベント開催、各種SNSや動画を通じて、
デジタルアセットを含めた総合的な金融情報の発信及び投資アドバイスの提供

YouTube

TikTok



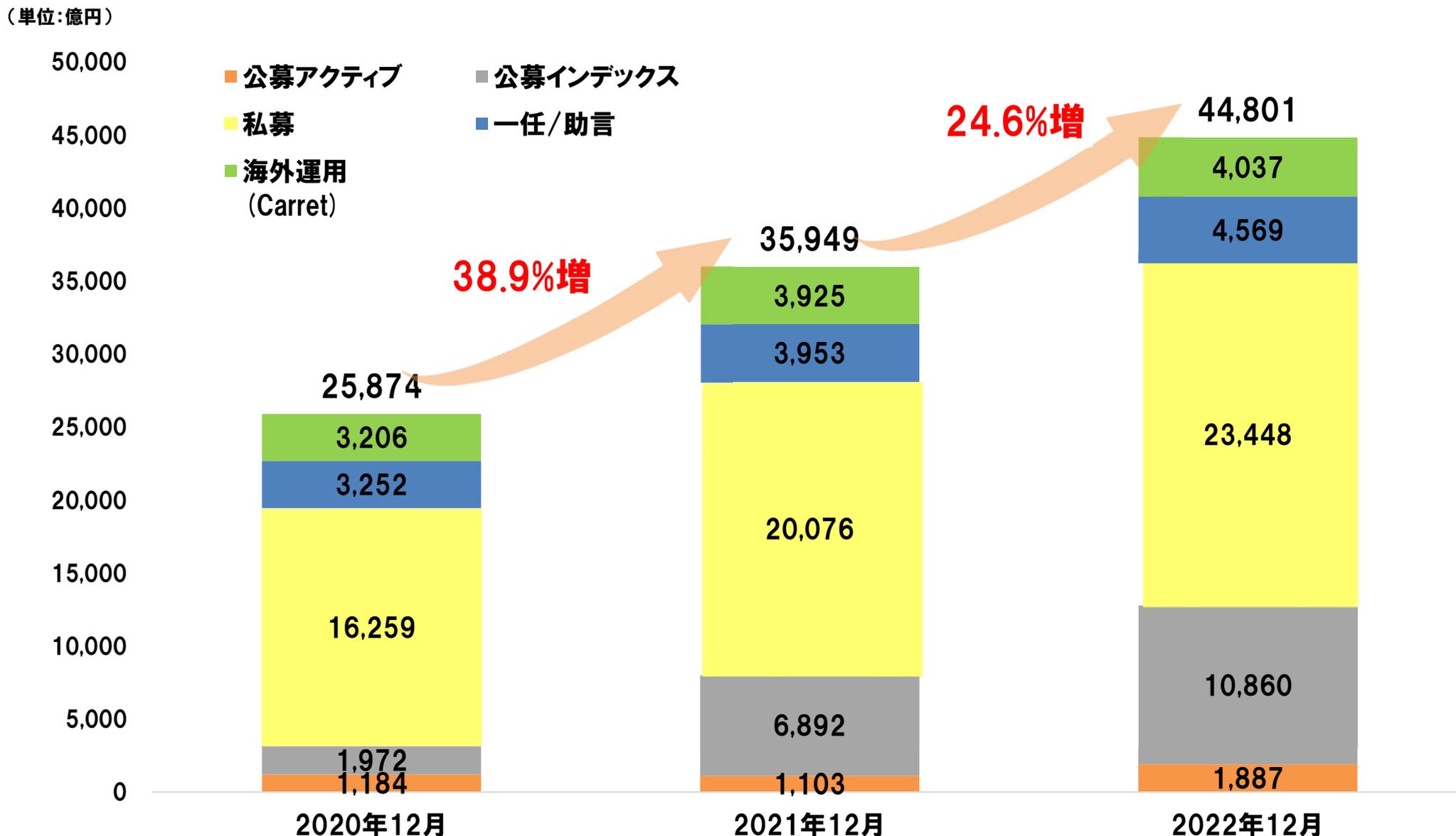
Instagram

facebook

アセットマネジメント事業の成長ポテンシャル

当グループの運用残高の推移

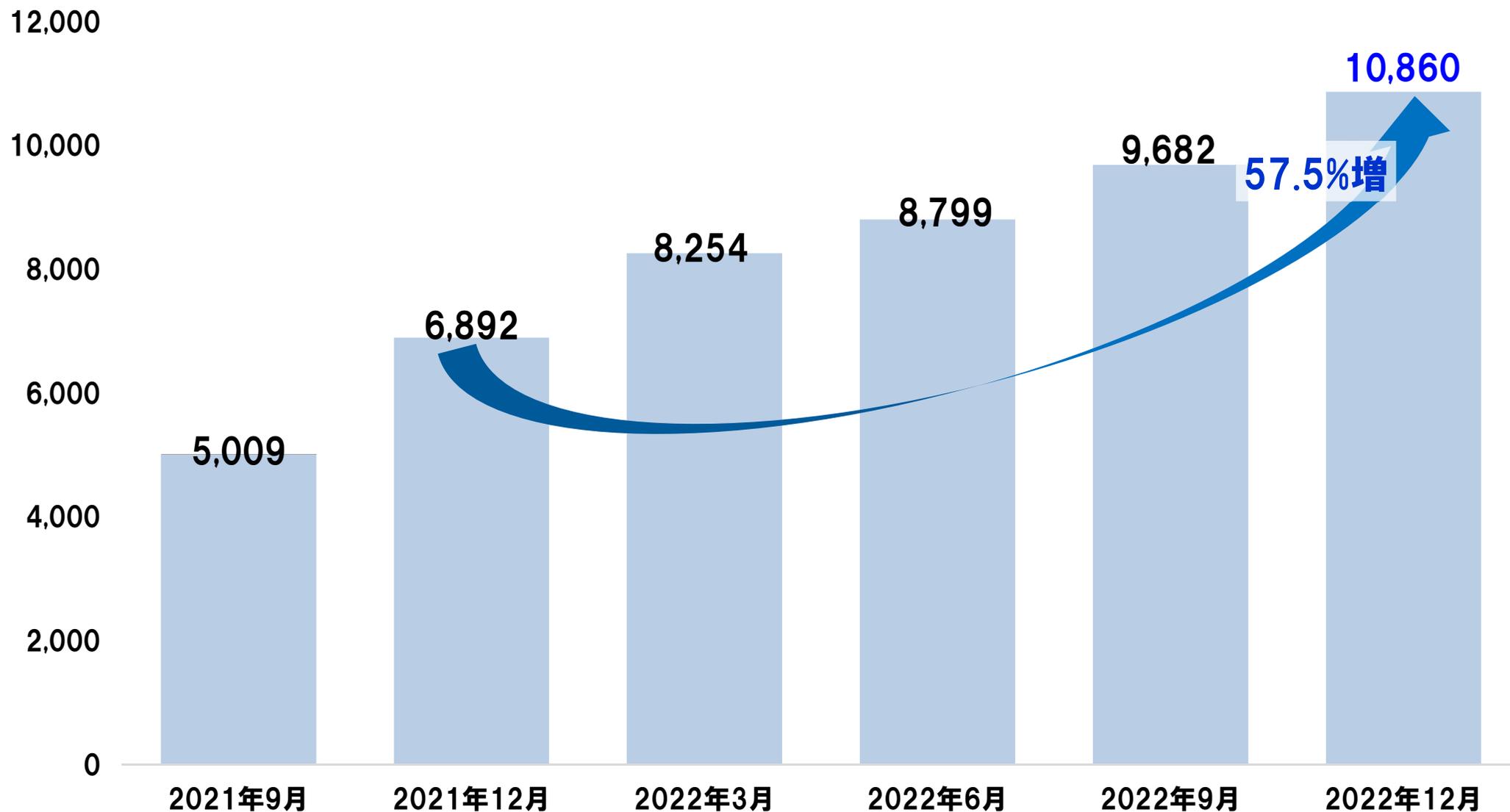
2022年12月末の運用残高は約4.5兆円、前年同期末比24.6%の増加



※ 新生インベストメントは2022年9月から。

インデックスファンドの運用残高の推移

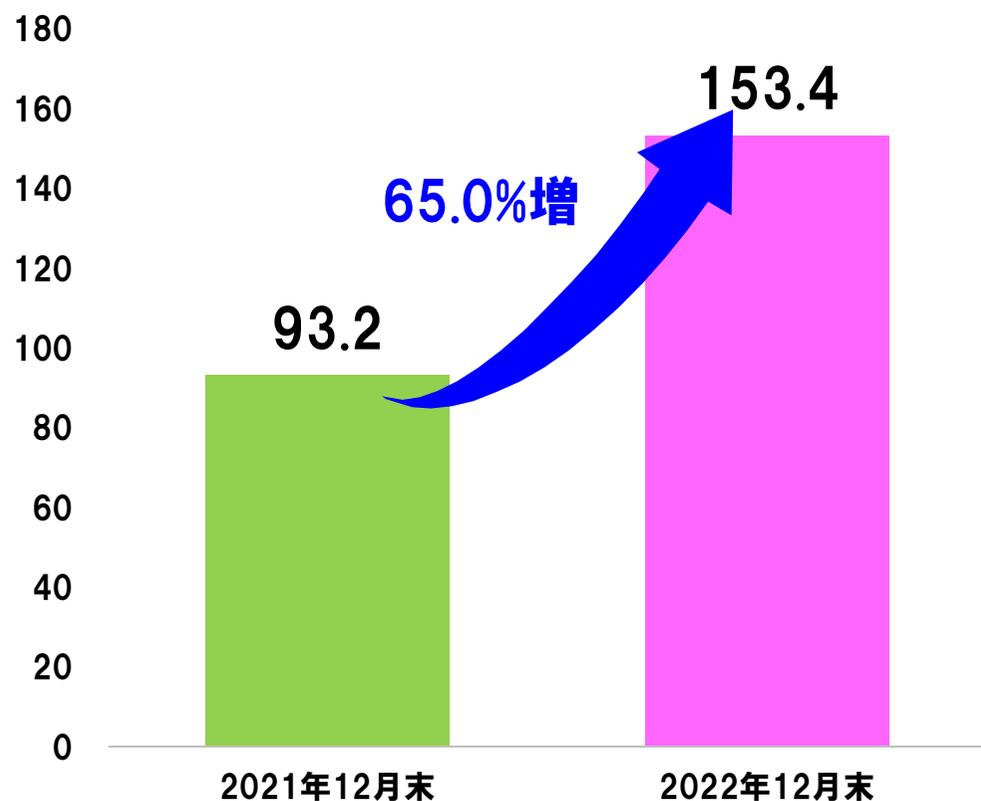
(単位:億円)



インデックスファンドの受益者数と積立口座数の伸び

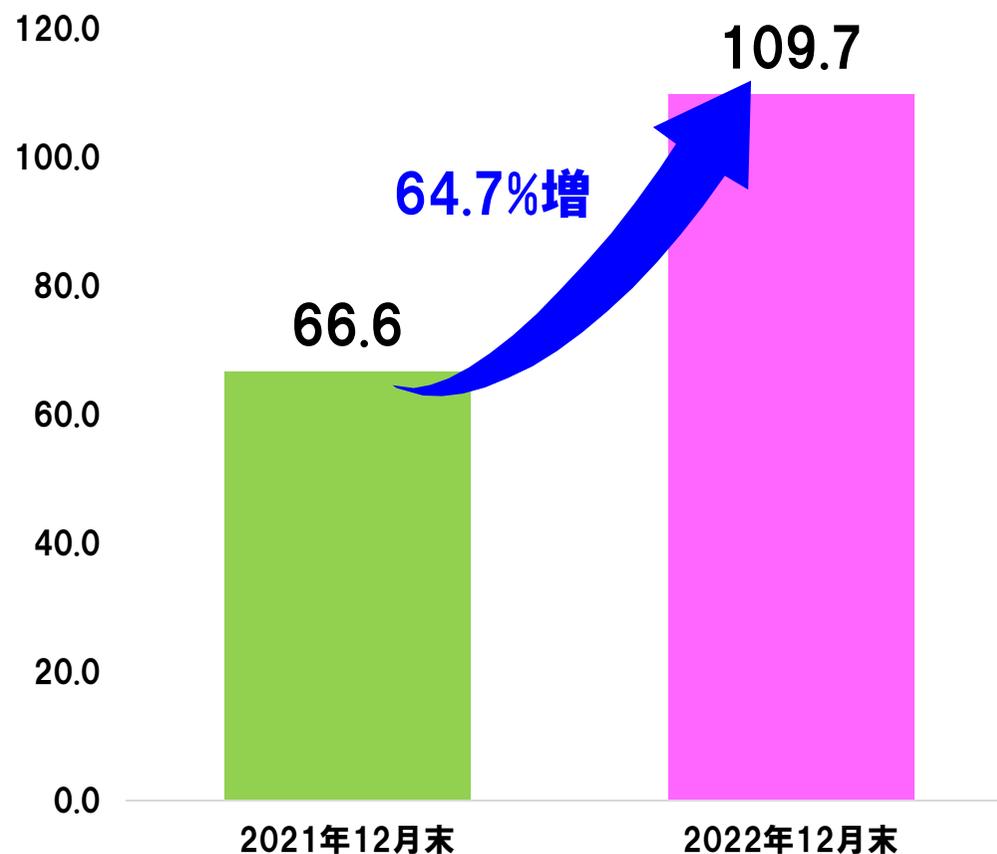
<受益者数>

(単位:万人)



<積立口座数>

(単位:万口座)



※ 受益者数と積立口座登録者数はSBI証券1社だけの数字

公募インデックスファンドの純資金流入額ランキング

(2022年4月～12月)

順位	運用会社	純資金流入累計額 (億円)	ファンド数 (本)
1	三菱UFJ国際	13,604	162
2	SBIアセットマネジメント	3,354	17
3	野村	3,138	129
4	楽天	2,970	10
5	大和	2,625	130
6	アセマネOne	1,960	87
7	三井住友DS	1,802	68
8	ニッセイ	1,087	47
9	日興	904	32
10	三井住友TAM	902	89
	29社合計	34,488	921

※ ※国内公募追加型株式投信(ETF等除く)のうち、投信協会基準でインデックスに属するファンド

※ ※ファンド本数は12月末時点、流入額は億円以下を四捨五入

SBIアセットマネジメント運用ファンドの 「SBIラップ」と「SBIラップ X (クロス)」は330億円突破

2022年10月20日スタートの
「SBIラップ X (クロス):SBI 新生銀行」は60日で33億円を突破

＜SBIラップ＞
(2022/3/31～2022/12/30)



＜SBIラップX(クロス)＞
(2022/10/20～2022/12/30)

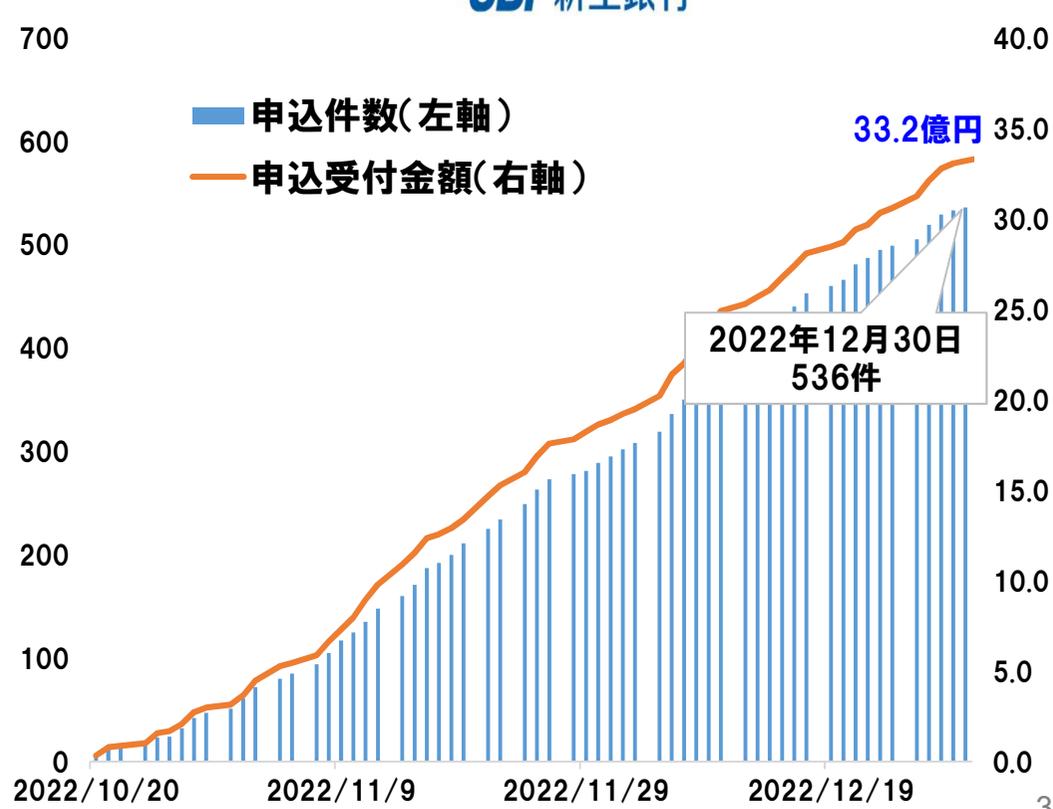
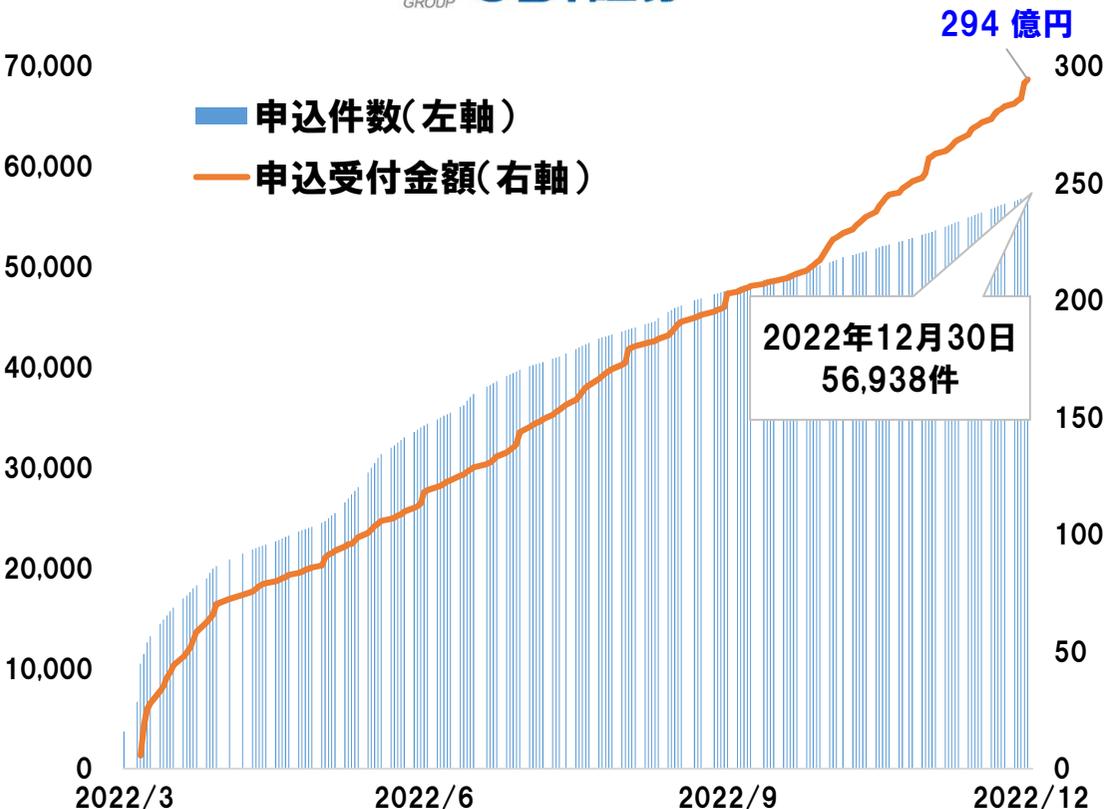
(単位:件数)



(単位:億円) (単位:件数)

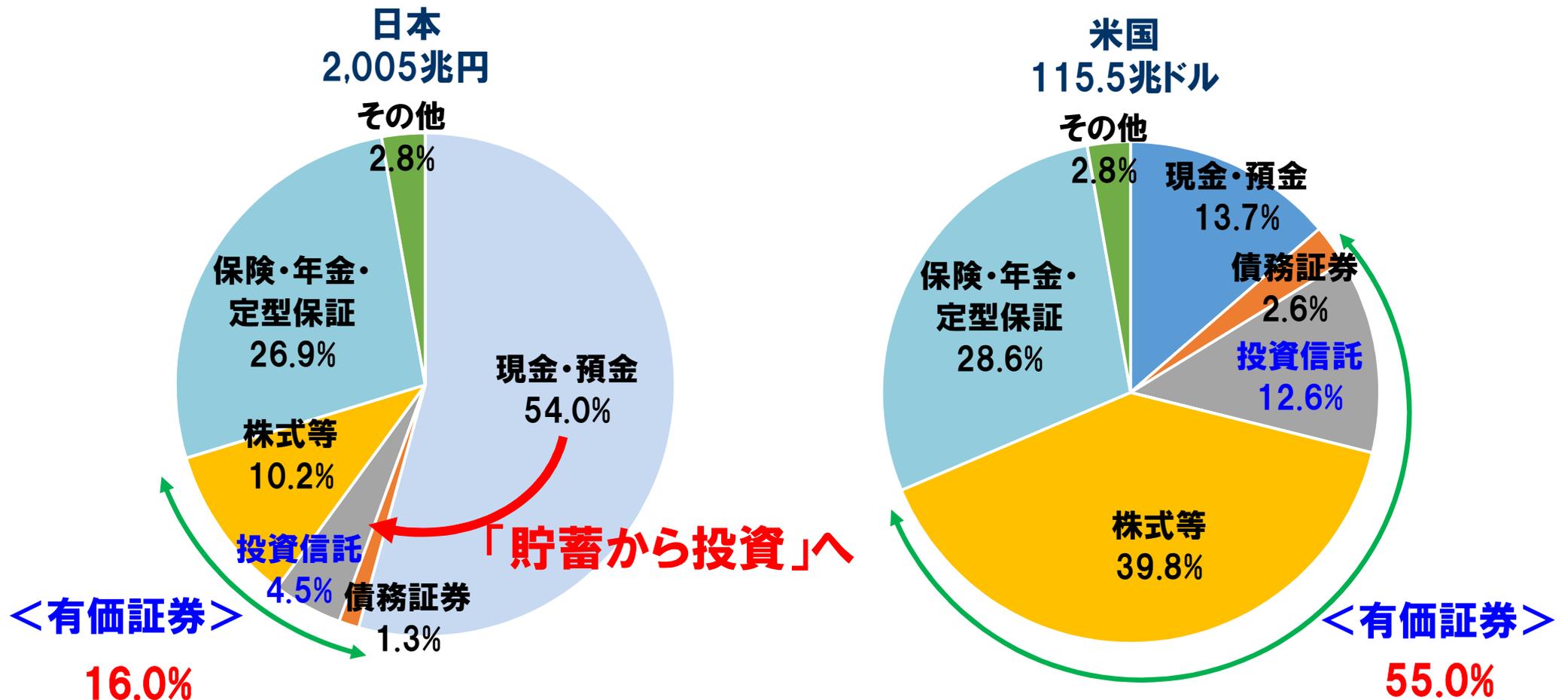


(単位:億円)



「貯蓄から投資」は一気に加速する

＜日米の家計の金融資産構成＞



出所：日本銀行調査統計局「資金循環の日米欧比較」よりモーニングスター作成
 ※ データは2022年3月末データ

2024年から「新しいNISA」が始まる

「つみたて投資枠」と「成長投資枠」は併用可能(年間最大360万円投資可能)

	つみたて投資枠	成長投資枠
年間投資枠	120万円	240万円
非課税保有限度額	1,800万円	1,200万円
投資対象商品	積立・分散投資に適した 一定の投資信託 (現行のつみたてNISA対象 商品と同様)	投資信託は、 信託期間20年未満、 高レバレッジ型、 毎月分配型を除外



インデックスファンド

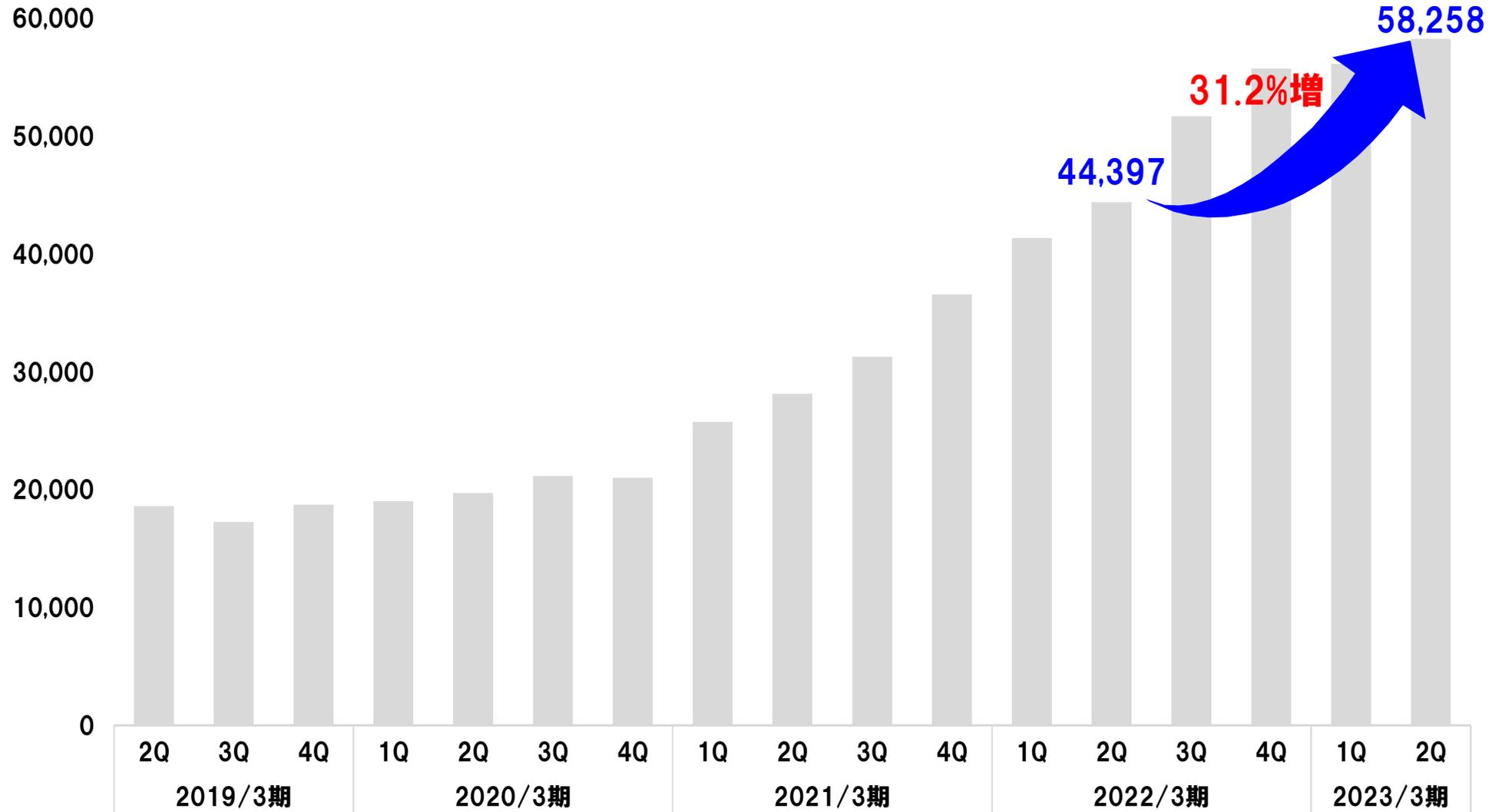


インデックスファンド &
低コストのアクティブファンド

急速に拡大するSBI証券の投資信託残高

(四半期末ベース)

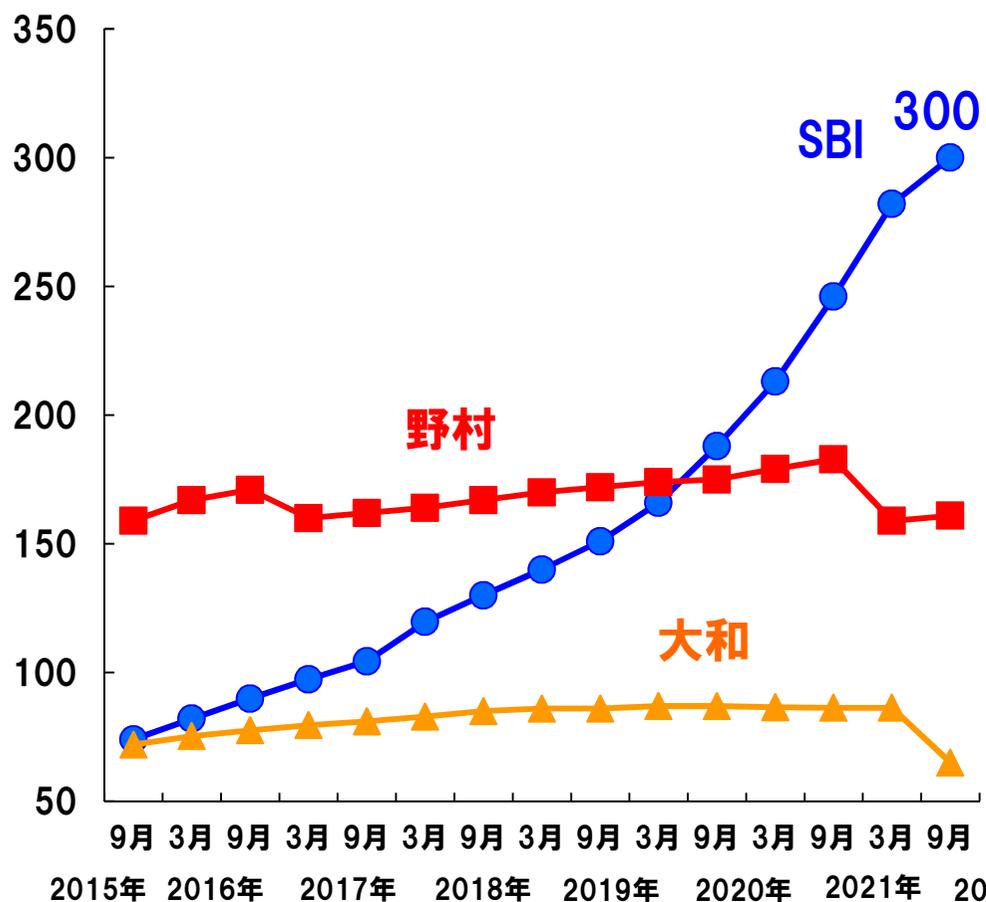
(単位:億円)



圧倒的に他社を凌駕するSBI証券の「NISA」と「iDeCo」の口座数

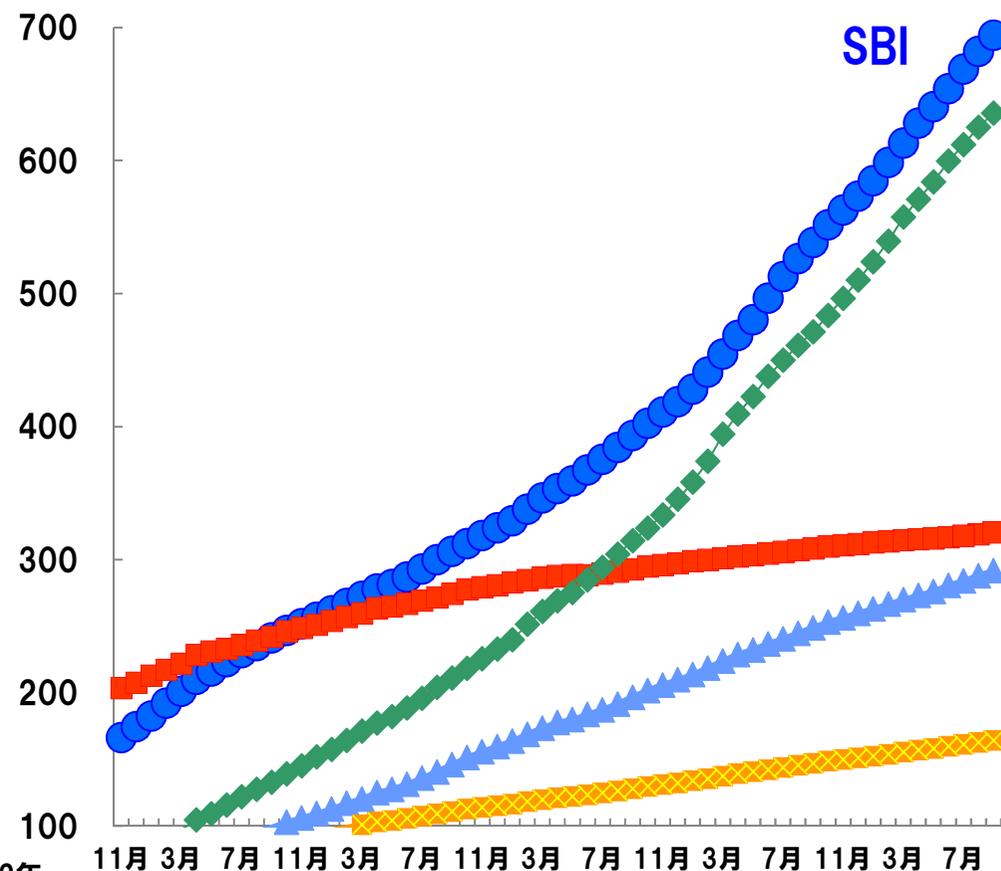
NISA口座の推移
(2015年9月～2022年9月)

(単位:万)



iDeCoの運営管理機関別
累積数(加入数+指図者数)の推移
(2017年11月～2022年9月)

(単位:千)



※1 ジュニアNISAを含む ※2 1万口座未満は四捨五入
 ※3 2022年9月末における口座数は各社公表資料による
 ※4 野村証券は2022年3月から、SBI及び大和証券については2022年度よりみなし廃止口座を除外

※国民年金基金連合会発表の加入者数と運用指図者数の合計値
 出所: 国民年金基金連合会資料(一部、当社推計値含む)

SBI証券との徹底したシナジーの追求

SBI証券の投信販売ランキング (2022年12月の1ヶ月間)

■ 販売額

順位	ファンド名称
1	SBI-SBI・V・S&P500インデックス・ファンド
2	三菱UFJ国際-eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)
3	三菱UFJ国際-eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)
4	SBI-SBI 日本株4.3ブル
5	SBI-SBI・V・全米株式インデックス・ファンド

■ 積立て設定額

順位	ファンド名称
1	SBI-SBI・V・S&P500インデックス・ファンド
2	三菱UFJ国際-eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)
3	三菱UFJ国際-eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)
4	SBI-SBI・V・全米株式インデックス・ファンド
5	ニッセイ<購入・換金手数料なし>ニッセイ外国株式インデックスファンド

■ つみたてNISA口座での買付金額

順位	ファンド名称
1	SBI・V・S&P500インデックス・ファンド
2	eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)
3	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)
4	SBI・V・全米株式インデックス・ファンド
5	ニッセイ<購入・換金手数料なし>ニッセイ外国株式インデックスファンド

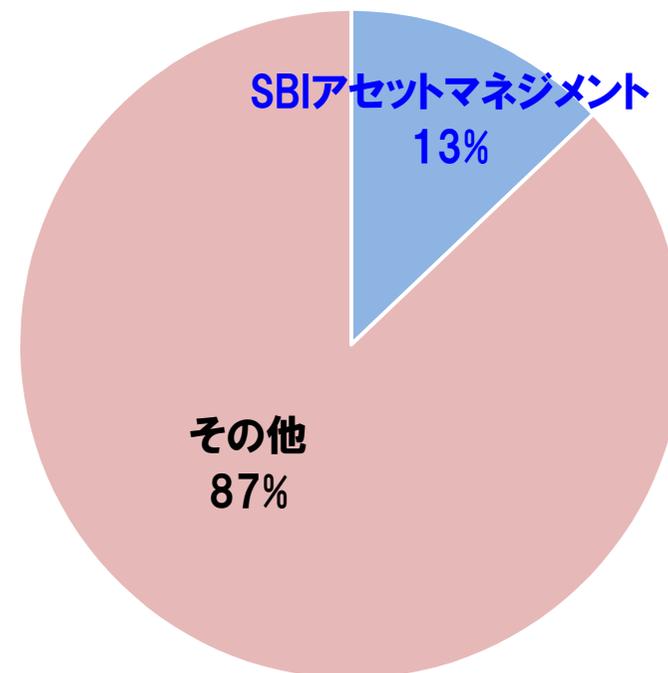
SBI証券のiDeCo口座経由の SBIアセットマネジメント運用ファンドの現状

(2022年9月末時点)

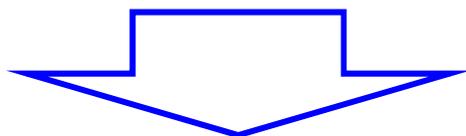
SBI証券のiDeCo向け投信残高の推移 (2016年3月～2022年9月)



SBI証券のiDeCo口座経由の SBIアセットマネジメントの残高シェア (2022年9月末)



SBIグループの強力な販売ネットワークにより 運用残高の更なる拡大へ



SBIグループ

SBIグループ出資行

ウェルズアドバイザー
による
マーケティングサポート



個人投資家

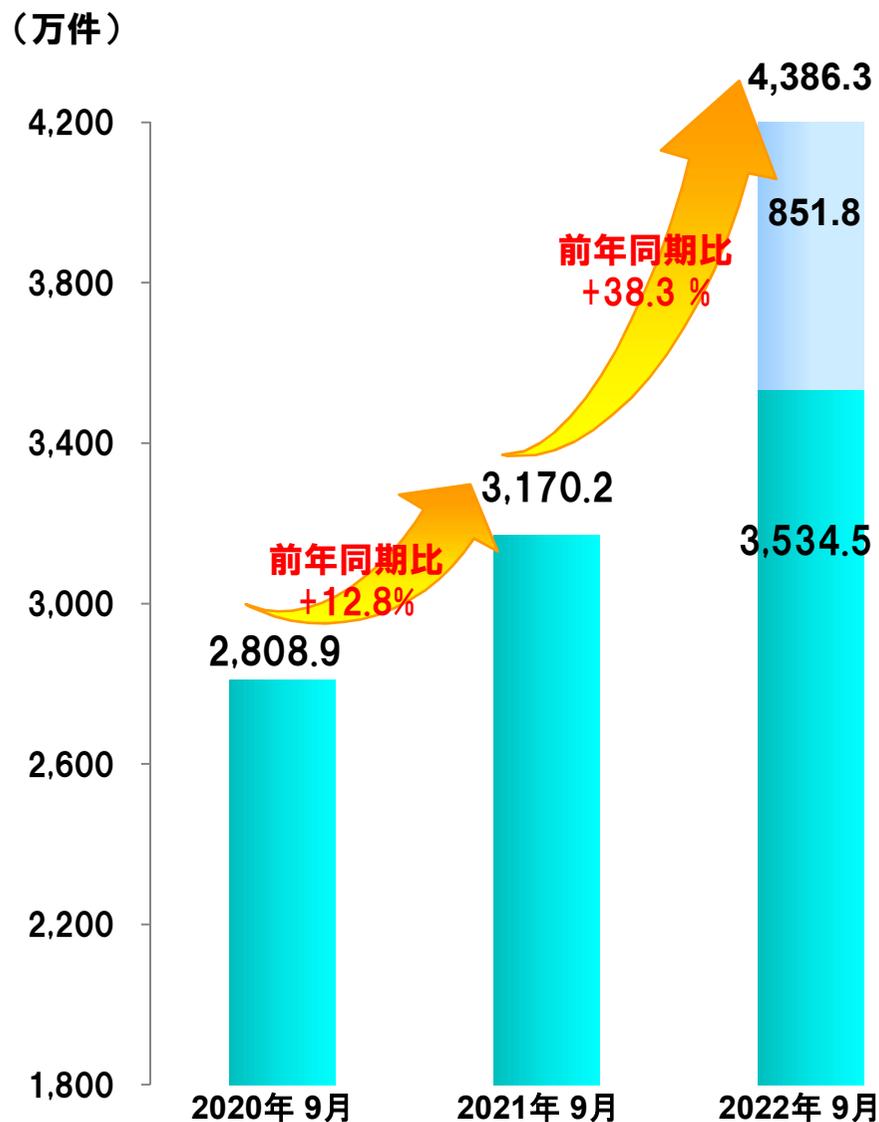


タブレット端末
「Wealth Advisors」

SBIグループの4,400万件の顧客基盤に最適な商品の提供

顧客基盤の内訳(2022年9月末)^{※1,2}

(単位:万)



SBI証券、 SBIネオモバイル証券、 SBIネオトレード証券、 及びFOLIO	(口座数)	918.7
SBIH インズウェブ	(保有顧客数)	1,062.4
イー・ローン	(保有顧客数)	323.4
MoneyLook(マネールック)	(登録者数)	95.0
モーニングスター	(利用者数) ^{※3}	127.9
住信SBIネット銀行	(口座数)	573.4
SBI損保	(保有契約件数)	117.5
SBI生命	(保有契約件数) ^{※4}	35.1
その他(SBI VCTトレード等) ^{※5}		281.0
新生銀行グループ^{※6}		
新生銀行	(口座数)	306
レイク事業	(顧客数)	84.2
アプラス	(有効カード会員数)	433.5
昭和リース	(契約件数)	28.1
合計	-	4,386.3

※1 各サービスサイト内で同一顧客として特定されない場合、及びグループ企業間において顧客が重複している場合はダブルカウントされています。

※2 組織再編に伴ってグループ外となった会社の顧客数は、過去の数値においても含めておりません。

※3 モーニングスターが提供するスマートフォンアプリのダウンロード数を含めております。 ※4 SBI生命の保有契約件数には、団体信用生命保険の被保険者数を含めております。

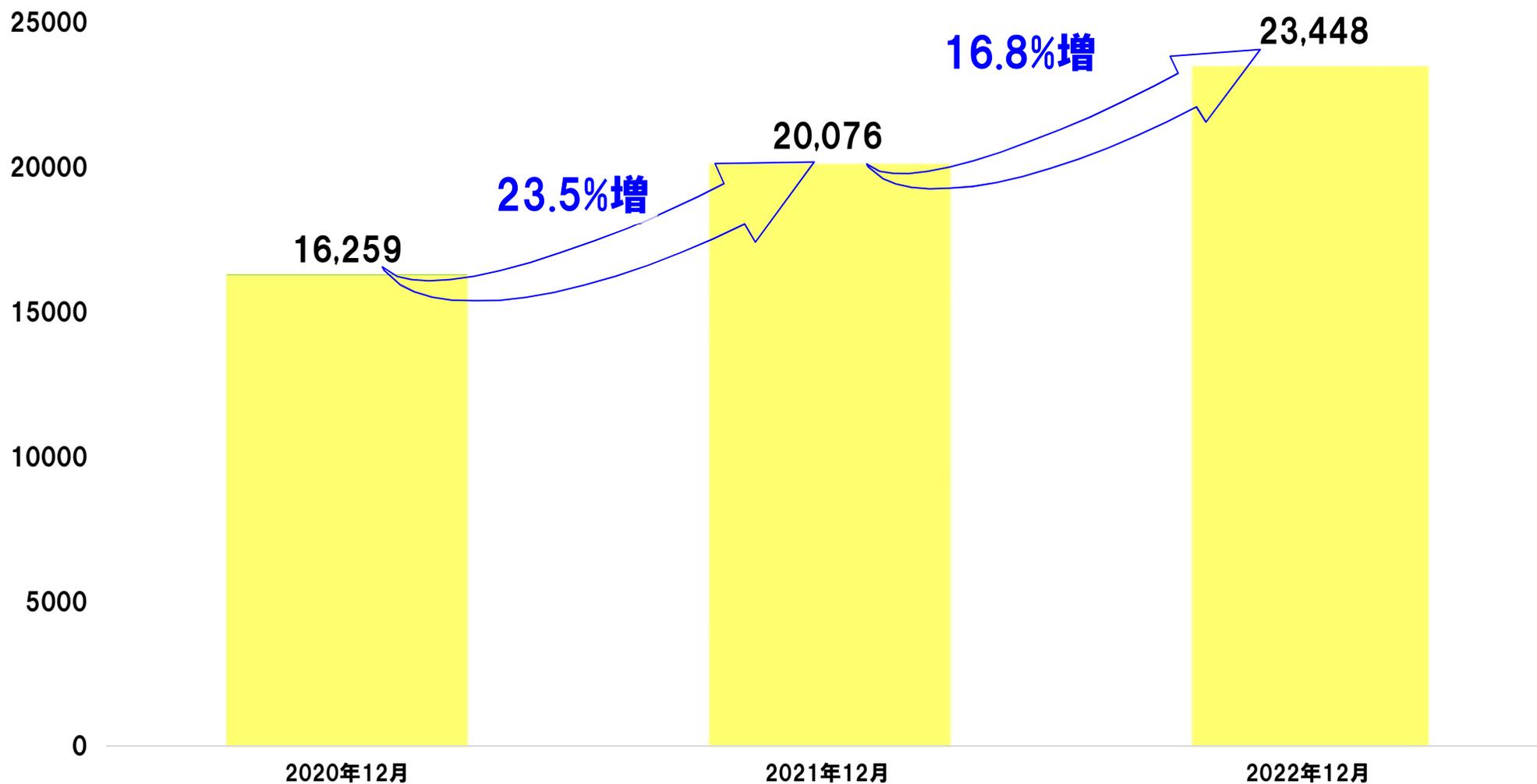
※5 SBI ID会員のお客様向けにご提供してきた「SBIポイント」はサービスの終了に伴い顧客基盤から削除しております。

※6 2022年度通期決算より新生銀行グループの顧客基盤項目を変更しております。

当グループの私募ファンドの受託残高の推移

2022年12月末の私募ファンドは約2.3兆円、前年同期末比16.8%の増加

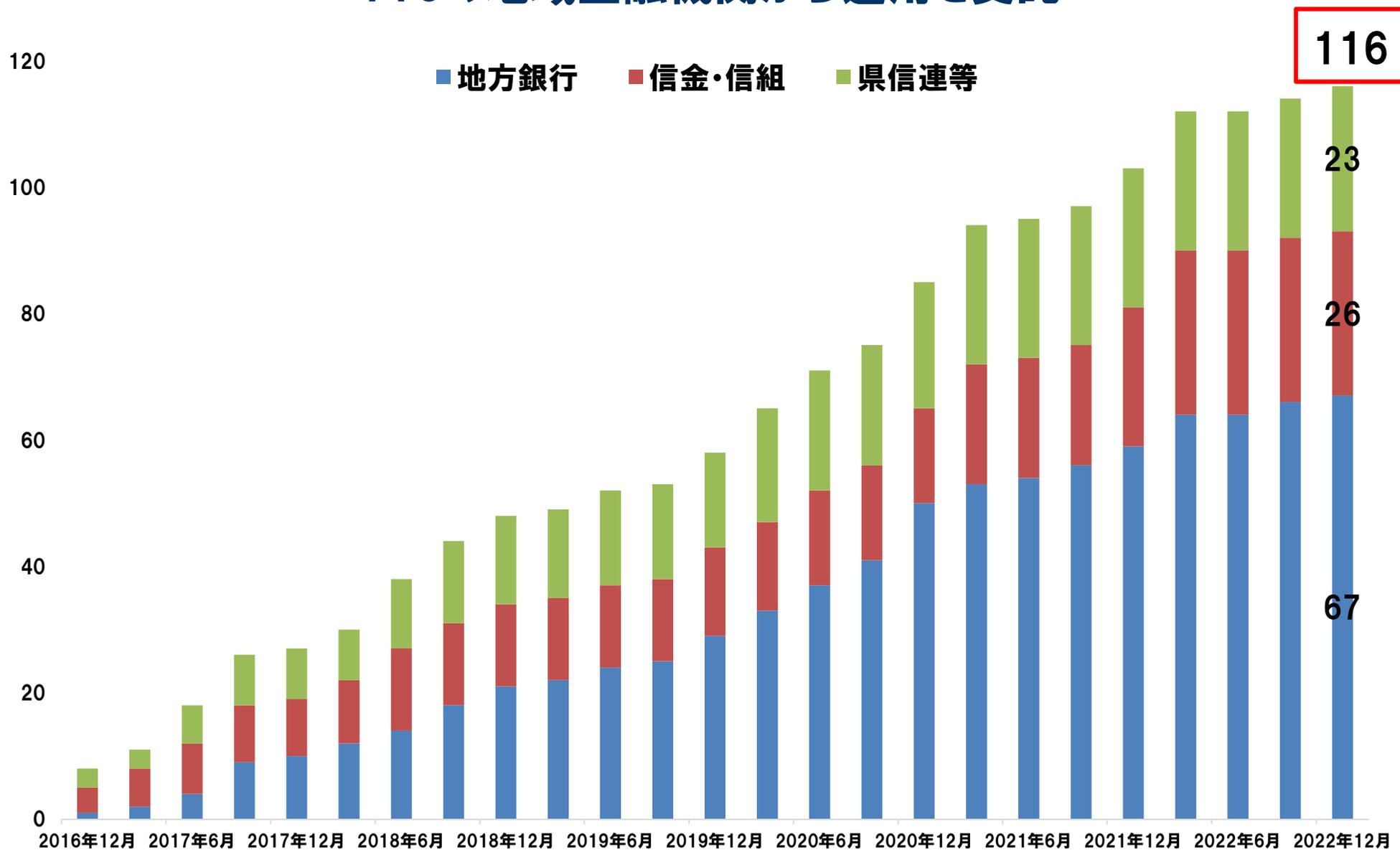
(単位:億円)



※ 新生インベストメントの数字は2022年9月から。

当グループの運用受託社数の推移

116の地域金融機関から運用を受託



私募投信の純資金流入額ランキング

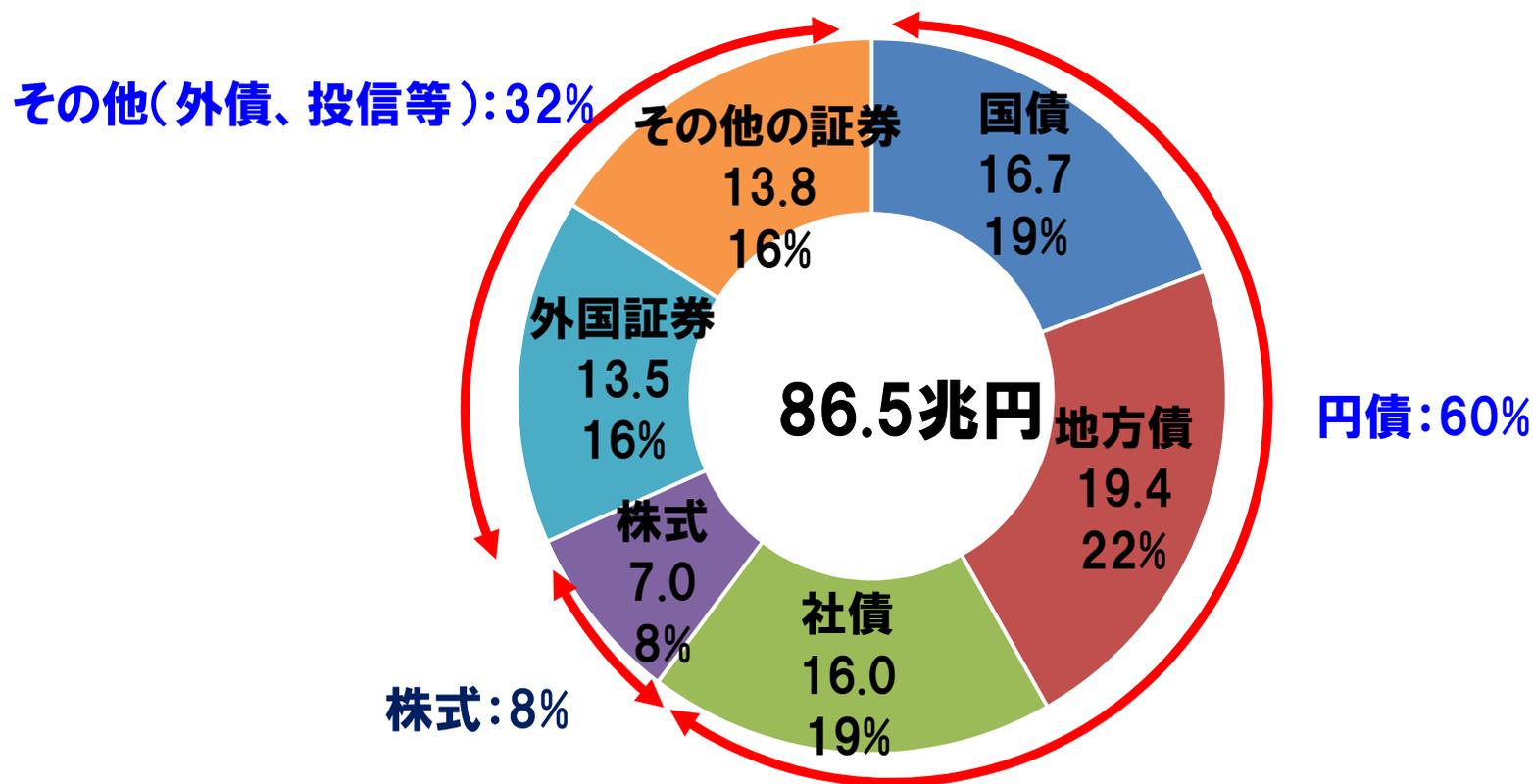
(2022年4月～12月)

(単位:億円)

	運用会社	設定額 (A)	解約額 (B)	償還額 (C)	純資金流入額 (A) - ((B) + (C))
1	三菱U国際	53,505	29,215	6,756	17,533
2	東京海上	18,554	4,420	1	14,133
3	インベスコ	10,494	1,852	419	8,222
4	ニッセイ	18,324	11,593	259	6,473
5	ゴールドマン	4,788	843	251	3,694
6	りそなAM	2,674	366	0	2,308
7	ピムコ	5,175	2,932	163	2,080
8	パークレイズ	2,873	723	104	2,046
9	ステート	3,487	1,782	7	1,698
10	アムンディ	6,344	4,664	26	1,654
11	ベイビュー	1,440	67	12	1,361
12	ニューバーガー	3,341	1,880	170	1,291
13	SBIアセット	4,579	2,971	423	1,184

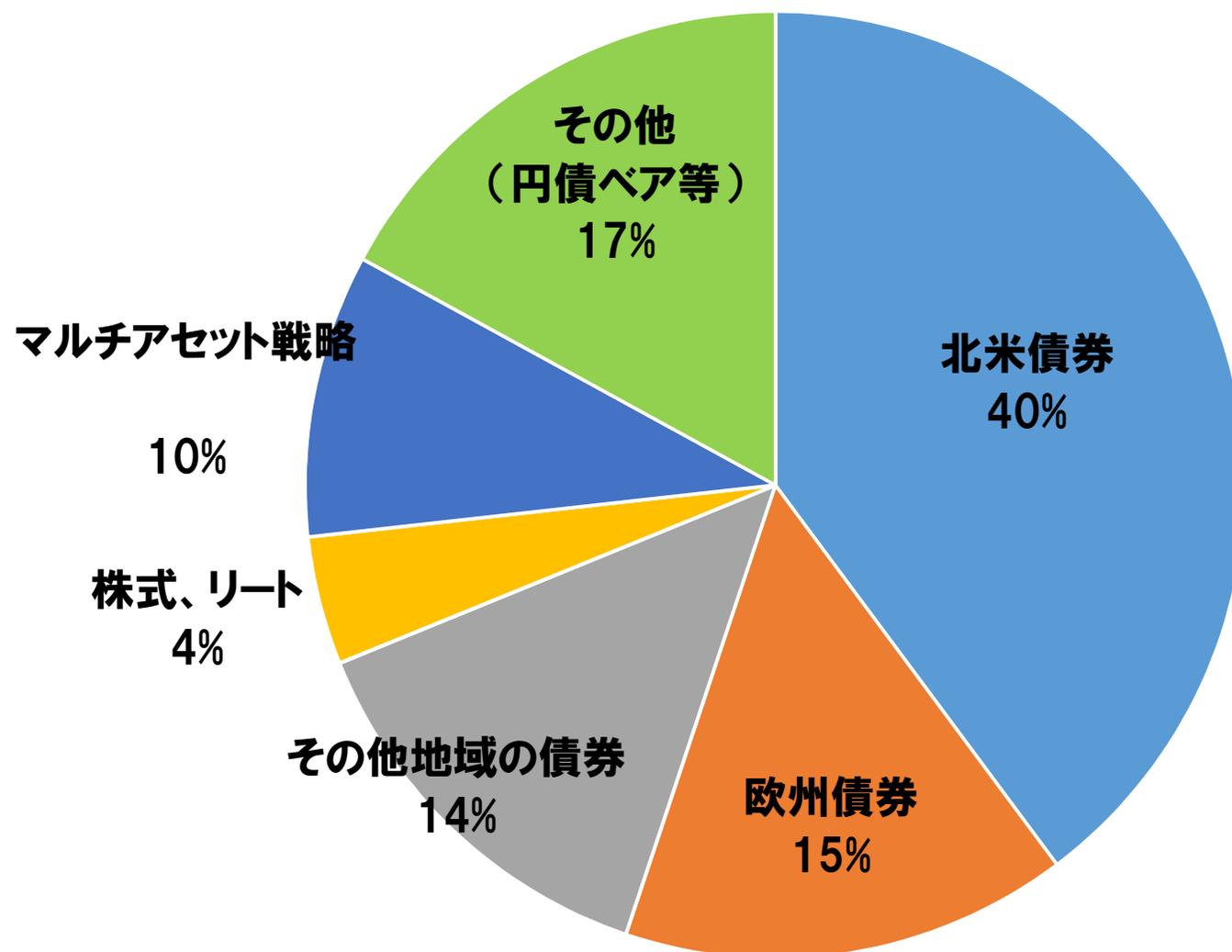
地銀全体の有価証券運用のポートフォリオの状況 (2022年9月末時点)

円債と外債が中心のポートフォリオ



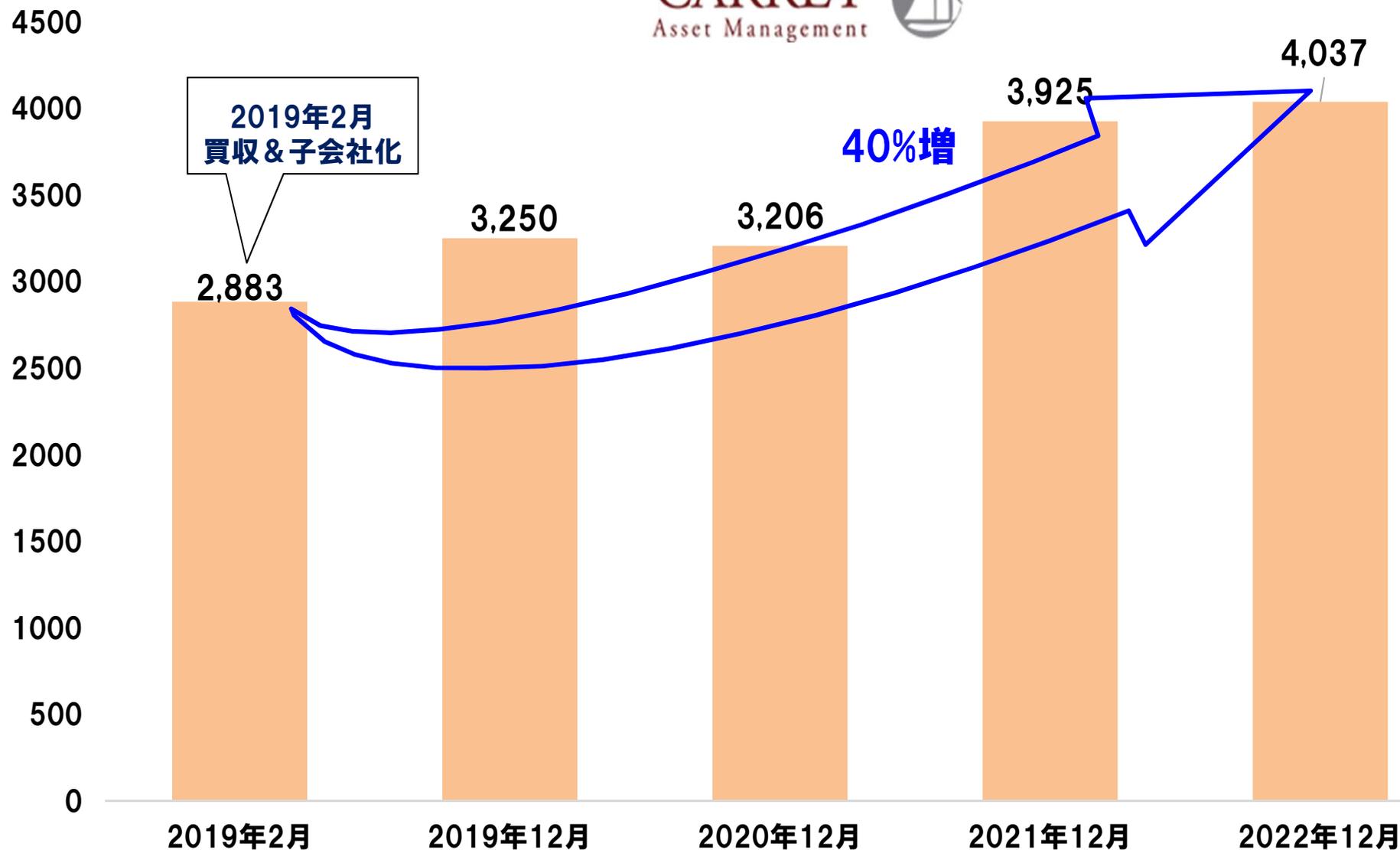
地銀を中心とした機関投資家の幅広い運用ニーズに対応

当グループ受託の私募ファンドの資産構成比



米国Carretアセットマネジメントは当社買収後に 大幅に運用残高を伸ばす

(単位:億円)



SBIグループ全体のアセットマネジメント各社との連携



SBIアセットマネジメント・グループ

約7.6兆円



2024年度中に
10兆円突破を目指す

<SBIグローバルアセットマネジメント>

<インデックス&マルチアセット>



約4.5兆円

<米国債券>



<アクティブ>



レオス・キャピタルワークス

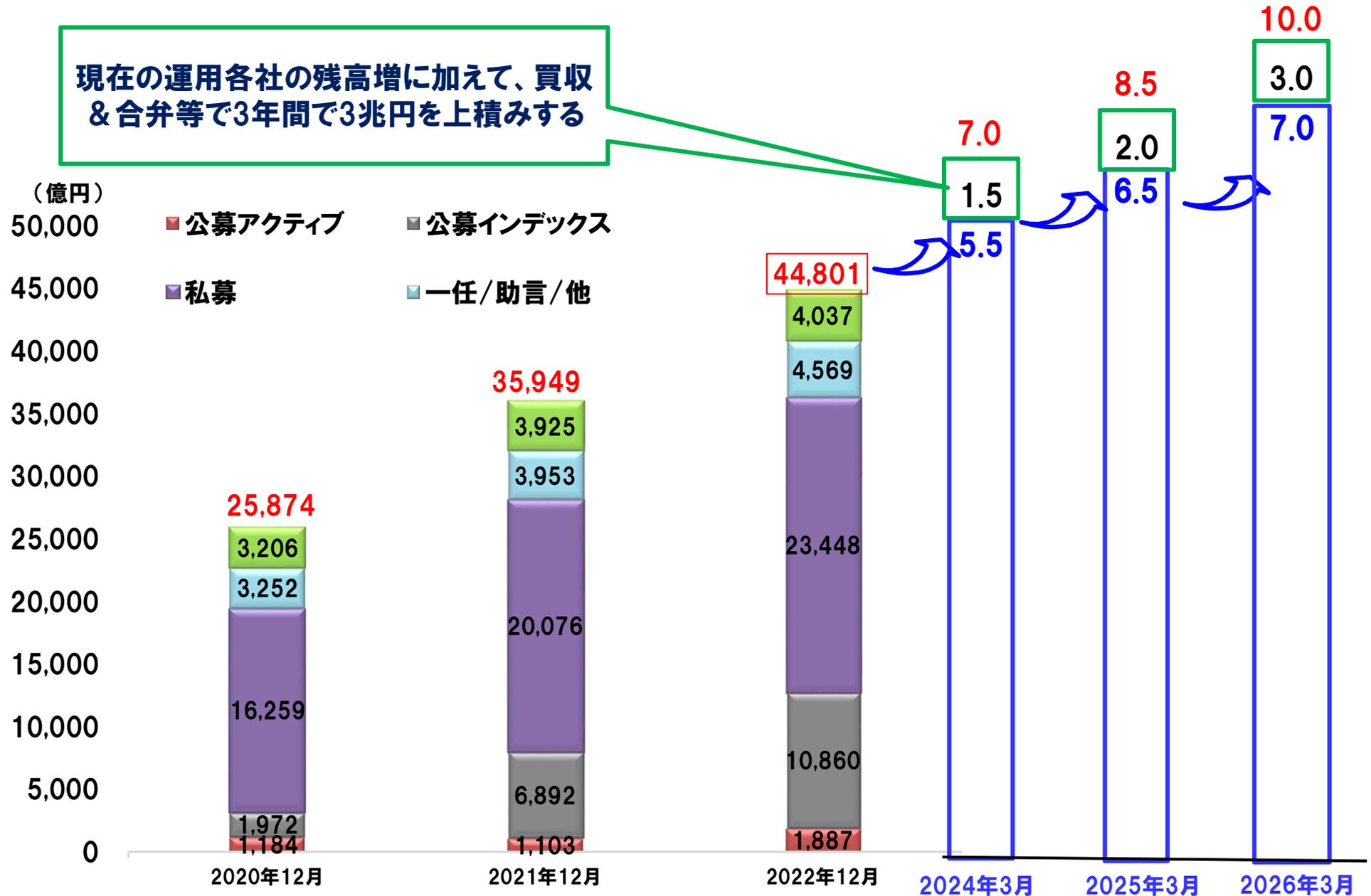
約2.3兆円

<プライベートエクイティ等>

約7,500億円

SBIグローバルアセットマネジメント傘下の運用残高は、 3年後に10兆円超の運用残高を目指す

現在の運用各社の残高増に加えて、買収
& 合併等で3年間で3兆円を上積みする



※ 2022年12月は12月9日現在。

株主 & 投資家向けIR活動の強化

株主 & 投資家向けIRの一層の強化

1. 株主 & 投資家の皆さまとの
オンライン(動画 & SNS含む)及び対面での接点を拡大
(各地で資産運用 & IRセミナーの開催)

2. 好配当の実施

3. 魅力的な株主優待

積極的なIR活動と株主還元の更なる拡充により
株主価値向上に務める

IR活動の強化 & 株主還元の向上により、当社を長期にわたり ご愛顧頂ける株主を増やしていきたい

(単位:人)

株主数の推移

